

兵陸軍教化隊入隊中ハ其ノ加俸ヲ停止ス

第三十六條 第十四條第二項及第三十二條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

第四節 精勤加俸

第三十六條ノ二 監獄看守又ハ警査トシテ五年以上勤續シ行狀方正勤務勉勵事務熟達ニ因リ其ノ精勤ヲ表彰セラレタル者ニハ月額十圓以内ノ精勤加俸ヲ給スルコトヲ得

精勤加俸ヲ受クル者處罰セラレタルトキ又ハ其ノ成績佳良ナラスト認メラレタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトヲ得

第三十六條ノ三 第十四條第二項及第三十二條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

第四章 手 當

第一節 潛航手當

第三十七條 潛水艦(未成艦ヲ含ム)又ハ之ニ裝備スル兵器ノ諸公試ニ從事スル軍人軍屬ニハ其ノ諸公試ノ爲潛航シタル日數ニ應シ第五表第二欄丙ノ額ノ二倍ニ相當スル額以内ノ潛航手當ヲ給スルコトヲ得

第三十八條 (削除)

第二節 宿舍手當

第三十九條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル准士官以上及軍屬ニ宿舍ヲ貸與セサルトキハ内地人ニ限リ第八表ニ依リ甲ノ手當ヲ給ス

第三十九條ノ二 潛水艦ノ乘員艦又ハ母艦ニ宿泊スルコト能ハサル場合ニ於テ上陸宿泊ヲ命セラレ

タルトキハ第八表ニ依リ乙ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十條 第十條ノ規定ハ前二條ノ手當ニ之ヲ準用ス

第四十一條 下士官兵陸上勤務外宿中下士官ニ在リテハ一日十五錢、兵ニ在リテハ一日十錢ノ手當ヲ給ス但シ宿舍ヲ貸與スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 前條ノ手當ハ入院、留置、勾留、處刑中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間之ヲ停止ス

第四十三條 監獄看守及警査ニハ土地ノ狀況ニ依リ一箇月十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第三節 生徒及學生手當

第四十四條 海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ一日十五錢、學生軍醫學生、藥劑學生、船學生、造機學生、造兵學生ヲ謂フ以下同シニハ一箇月五十圓、造船生徒、造機生徒及造兵生徒ニハ一箇月三十七圓五十錢ノ手當ヲ給ス

第四十五條 生徒及學生入院又ハ轉地療養ヲ爲ストキハ其ノ間前條手當ノ三分ノ一ヲ給ス

第四十六條 生徒及學生留置、勾留、處刑中、被告事件ノ爲護送中又ハ私事ニ因リ在校セサルトキハ其ノ間第四十四條ノ手當ヲ停止ス

第四十七條、第四十八條 (削除)

第四十九條 學生又ハ造船生徒、造機生徒、若ハ造兵生徒ヲ免シタルトキハ既ニ給シタル金額ヲ辨償セシム但シ學業成績ノ不良又ハ傷痍疾病ニ因リ之ヲ免シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

造船生徒、造機生徒又ハ造兵生徒タリシ者海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒令第六條ノ規定ニ

依ル義務ヲ履行セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十條 海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ必要ニ應シ六箇月分以内ノ手當ヲ前
金渡スルコトヲ得

第四節 (削除)

第五十一條 (削除)

第五節 勞働手當

第五十二條 下士官兵潜水ノ事業ニ從事スルトキハ一日一圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十三條 下士官兵左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一日二十五錢以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

一 艦底、汽罐内部、機關室底部又ハ水罐底部ノ掃除ニ從事スルトキ

二 艦船ニ於テ石炭積込ノ際石炭庫内ノ事業ニ從事スルトキ

三 難破船又ハ漂流人ノ救助ニ從事スルトキ

四 前各號ニ準スヘキ非常ノ勞働ニ從事スルトキ

第五十四條 下士官兵熱帶地方其ノ他炎熱ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一日十二錢以内
ノ手當ヲ給スルコトヲ得

一 艦船ニ在リテ釀汽中機關部ノ事業ニ從事シ又ハ廚房ノ事業ニ從事スルトキ但シ小蒸汽艇ニ在
リテハ此ノ限ニ在ラス

二 北緯三十度以南ノ陸地ニ於テ釀汽中機關部ノ事業ニ從事シ又ハ廚房ノ事業ニ從事スルトキ
前項ノ手當ヲ給スル期間ハ熱帶地方ノ外ニ在リテハ暑期百二十日以内トス

第六節 被服手當

第五十五條 新ニ士官ニ任用シ、候補生ニ採用シ又ハ下士官ヨリ准士官ニ進級シタルトキハ其ノ際

第十表ニ依リ初任手當ヲ給ス

特務大尉ヨリ少佐ニ、機關特務大尉ヨリ機關少佐ニ、主計特務大尉ヨリ主計少佐ニ任用シ又ハ海
軍武官進級令第二十一條若ハ第二十二條ノ規定ニ依リ下士官ヨリ准士官ニ進級シタルトキハ第十
表初任手當相當額ノ三分ノ一ヲ給ス

隊備士官ニ任用シ又ハ豫備下士官ヨリ豫備准士官ニ進級シタル場合ニ於テ初任手當給與ノ必要ア
ルトキハ第十表初任手當相當額ノ三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得

第五十六條 准士官以上及候補生艦船ノ破壊又ハ沈没ニ因リ被服ヲ亡失シタルトキ又ハ毀損シテ使
用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ第十表ニ依リ臨時手當ヲ給スルコトヲ得

第五十七條、第五十八條 (削除)

第五十九條 監獄看守又ハ警査ニ採用シタルトキハ其ノ際初度手當トシテ五十圓ヲ給ス但シ監獄看
守、警査相互轉職ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 監獄看守及警査ニハ被服保續當手トシテ一箇年十五圓ヲ給ス

第六十一條 前條ノ手當ハ毎年九月及三月ノ二期ニ分チ之ヲ支給ス

第六十二條 監獄看守及警査職務上避シヘカラサル事故ニ因リ被服ヲ破損又ハ亡失シタルトキハ臨
時手當トシテ四十圓以内ヲ給スルコトヲ得

第七節 支度手當

第六十三條 准士官以上候補生並文官及同待遇者ニシテ東經九十度、西經百四十度、南緯三十四度及北緯六十度ノ外ニ航海スル艦船ニ乗組ノ者ニハ出航ノ際第十一表ニ定ムル金額以內ノ支度手當ヲ給スルコトヲ得艦船出航後該艦船ニ乗組ヲ命セラレ赴任スル者ニ付亦同シ

第一期練習中ノ候補生、前項ノ經緯度内ニ在ル歸航中ノ艦船ニ乗組ヲ命セラレタル者又ハ支度料ヲ受ケ出張中艦船乗組ヲ命セラレタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十四條 支度手當ノ支給ヲ受クヘキ者乗組艦船ノ事故ニ依リ出航セサルトキ、出航前官ノ都合ニ依リ乗組ヲ免セラレタルトキ又ハ死亡シタルトキハ前條支度手當ノ半額以內ヲ給スルコトヲ得

前項ノ支度手當ヲ受ケタル者ニ對シ六箇月以內ニ更ニ前條ノ支度手當ヲ給スル場合ニ於テハ其ノ額ハ前項ノ支度手當ト合セテ第十一表ニ定ムル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第八節 離現役手當

第六十五條 下士官兵左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ第十二表ニ依リ離現役手當ヲ給ス

一 兵現役中死亡シタルトキハ死亡手當

二 下士官兵自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ服務ニ關聯シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲現役ヲ離レタルトキハ傷病手當

三 下士官兵ニシテ志願ニ依リ三年以上現役ニ服シタル者現役ヲ離レタルトキ又ハ六年以上現役ニ服シタル者現役ヲ離レタルトキハ一時手當

前項第三號ノ手當ハ前項第一號又ハ第二號ノ手當ト之ヲ併給ス

第六十六條 前條ノ手當ハ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、屢刑罰若ハ懲罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ爲現役ヲ免セラレタル者又ハ軍人タルノ體面ヲ汚シタル者ニハ之ヲ給セス

第六十七條 第六十五條第一項第一號ハ第三號ノ規定ニ依リ死亡シタルトキ給スル手當ハ死亡ノ當時死亡者ト同一ノ家ニ在リタル寡婦、子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹ノ順位ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ順位同シキ者ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第六十五條第一項第一號ノ死亡手當ニ付テハ第一項ノ遺族ナキ場合ニ於テ本人死亡ノ當時實家ニ在ル實父母、死亡者ノ家督相續人、本人死亡當時ニ於ケル戸主ノ順位ニ依リ第一項ノ遺族ニ支給スヘキ金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第六十八條 第六十五條第二號ノ規定ニ依ル手當ハ增加恩給又ハ傷病賜金ヲ給セラルヘキ者ニ、同條第三號ノ規定ニ依ル手當ハ普通恩給、一時恩給、扶助料又ハ一時扶助料ヲ給セラルヘキ者ニハ之ヲ給セス

第五章 死亡賜金

第六十八條ノ二 准士官以上、候補生及下士官在職中死亡シタルトキハ第十二表ノ二ニ依リ死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

第六十八條ノ三 第六十七條ノ規定ハ前條ノ死亡賜金ニ之ヲ準用ス

第六章 扶助金

第六十九條 現役ノ下士官及志願兵ノ家族ニハ扶助金一箇月一圓五十錢ヲ給ス

第七十條 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ前條ノ扶助金ヲ停止ス

- 一 下士官及志願兵歸休ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ
- 二 下士官及志願兵所在不明ト爲リタル後又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタル後二箇月ヲ過キタルトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明又ハ復歸ノ前月迄
- 三 下士官及志願兵懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ執行開始ノ翌月ヨリ刑期滿限ノ前月迄
- 四 下士官及志願兵ノ家族所在不明ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明ノ前月迄
所在不明ノ下士官及志願兵所在判明シタルトキハ其ノ不明ト爲リタル原因正當ノ事由アル場合ニ限リ停止中ノ前條扶助金ヲ給ス

第七十一條 第六十九條ノ扶助金ハ毎年九月及三月ノ二期ニ分チテ之ヲ支給ス

第七十一條ノ二 演習召集ニ應召シタル豫備役後備役下士官兵ノ家族ニハ扶助金一日一圓ヲ給ス

第七十一條ノ三 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ前條ノ扶助金ヲ停止ス

- 一 應召者所在不明ト爲リタルトキ又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ日ヨリ所在判明又ハ復歸ノ前日迄
- 二 應召者懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ執行開始ノ日ヨリ刑期滿限ノ日迄
- 三 應召者ノ家族所在不明ト爲リタルトキハ其ノ日ヨリ所在判明ノ前日迄

所在不明ノ應召者所在判明シタルトキハ其ノ不明ト爲リタル原因正當ノ事由アル場合ニ限リ停止中ノ前條ノ扶助金ヲ給ス

第七章 被服

第七十二條 下士官兵ニハ第十三表ニ依リ被服物品ヲ交付ス但シ短期現役兵召集中ノ下士官兵及陸軍教化隊入隊中ノ兵ニ交付スヘキ定數ハ第十三表ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ム

第七十三條 嚴寒ノ地方ニ在ル下士官兵又ハ同地方ニ航海スル艦船乗組ノ下士官兵ニハ防寒服ヲ交付スルコトヲ得

第七十四條 下士官兵(短期現役兵ヲ除ク)ニ交付スル被服物品ハ交換期限及交換定數ヲ定メテ之ヲ交換ス其ノ期限及定數ハ海軍大臣之ヲ定ム但シカラー、カフス、帽日覆、袴釣、帶皮、半靴、靴下、手袋、紺足袋、軍帽、前章^{下士官}、臂章及食器中ノ箸ハ之ヲ還付セシメス

第七十四條ノ二 下士官兵ニハ半靴修補ノ爲一年一圓ノ修補料ヲ給スルコトヲ得但シ短期現役兵及召集中ノ者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條ノ三 前條ノ修補料ハ毎年五月及十一月ノ二期ニ分チテ之ヲ給ス

第七十五條 下士官兵豫備役若ハ後備役ト爲リ又ハ歸休ヲ命セラレタルトキハ被服物品ヲ給ス其ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十六條 下士官兵召集ヲ解カレタルトキハ適宜被服物品ヲ給スルコトヲ得

第七十六條ノ二 海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ第十三表ノ二ニ依リ被服物品ヲ交付又ハ給與ス其ノ交付又ハ給與ノ時期及定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十七條 前項ニ依リ交付シタル被服物品ハ當該生徒ヲ候補生ニ採用シタル場合ニ限り之ヲ還付セシメサルコトヲ得其ノ還付セシメサル被服物品ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十七條 下士官兵又ハ海軍兵學校、海軍機關學校若ハ海軍經理學校生徒死亡シタルトキハ葬儀

ニ必要ナル被服物品ヲ給ス其ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十八條 記章佩用ノ資格ヲ有スル下士官兵ニハ其ノ記章ヲ交付又ハ給與ス

第七十九條 左ノ各號ノ一ニ當ル場合ニ於テ必要アルトキハ適宜被服物品ヲ給スルコトヲ得

一 難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

二 局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

三 外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

第八章 食料及糧食

第七十九條ノ二 左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ食數ニ應シ食料ヲ給スルコトヲ得

一 艦船乗組ノ准士官以上、候補生並文官及同待遇者

二 團隊又ハ要港部ニ在ル准士官以上、候補生及文官同待遇者

三 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル准士官以上、候補生、文官同待遇者及雇員傭人

四 陸上勤務外宿中ノ下士官兵及望樓勤務又ハ無線電信所勤務ノ軍人

第八十條 左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ第十四表ノ量額ヲ最上限トシ糧食ヲ給ス但シ陸軍教化隊入隊中ノ兵ニハ同隊ニ於ケル糧食ヲ給ス

一 學校又ハ病院ニ宿直スル准士官以上及候補生

二 學校ニ起臥スル候補生

三 艦船乗組又ハ公務旅行ニ因ル艦船便乗ノ生徒、學生、下士官兵及艦營傭人

四 團隊、要港部、學校又ハ病院ニ在ル生徒、下士官兵及艦營傭人

五 公務ニ原因シ海軍病院入院中ノ准士官以上、候補生、軍屬及職工人夫（健康保險法ニ依ル保險給付又ハ之ニ相當スル共済組合ノ給付ヲ受ケル爲入院中ノ者ヲ除ク）

六 海軍病院入院中ノ生徒、學生、下士官兵及艦營傭人

七 在監ノ囚人及刑事被告人

八 海軍官衙及艦船ニ於ケル拘禁又ハ護送中ノ者

九 水雷母艦乗組又ハ工作船乗組ノ雇員、傭人及職工

十 兵役法又ハ海軍志願兵令ニ依リ海兵團又ハ航空隊内ニ在リテ身體検査中ノ者

第八十一條 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ前條ニ準シ糧食ヲ給スルコトヲ得

一 第七十九條ノ二ニ依リ食料ヲ給スヘキ者ニ糧食ヲ給スルノ必要アルトキ

二 海軍大臣ニ於テ演習ノ際職工人夫其ノ他ノ者ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト認メタルトキ

三 難破船救助ノ場合ニ於テ旅費ノ給與ヲ受ケサル者ニ糧食ヲ給スルノ必要アルトキ

四 難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

五 局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

六 外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

七 海軍大臣ニ於テ海軍病院收療中ノ外國軍人ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト認メタルトキ

八 前條第五號又ハ第六號ニ該當スル者海軍病院入院中豫備役、後備役、免官、免役又ハ退職ト爲リ、召集ヲ解カレ其ノ他同號ニ該當セサルニ至リタル際傷痍又ハ疾病ノ爲退院スルコト能ハサルトキ

第七十九條ノ二第一號ニ依リ食料ヲ給スヘキ者ニハ必要ニ應シ食料ノ全部又ハ一部ニ換ヘ糧食中適宜ノ品種ヲ給スルコトヲ得

第八十二條 糧食ハ第十四表ニ掲クル品種又ハ量額ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テハ適宜品種又ハ量額ヲ定メテ之ヲ給スルコトヲ得

第八十三條 公暇、賜暇、公務旅行又ハ私事ニ因リ艦船團體要港部學校又ハ病院ニ在ラサル者ニハ食料又ハ糧食ヲ給セス但シ生徒夏季冬季ノ休暇ニ依ル外出中ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條 第七十九條ノ二第三號又ハ第四號ニ該當スル者公暇、賜暇、公務旅行又ハ私事ニ因リ其ノ官衙部隊所在地ヲ離ルルトキハ食料ヲ給セス

第八十五條 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者、航空機搭乗者及潜水艦乗員ニハ衛生上ノ必要ニ應シ糧食ノ幾分ヲ滋養食品等ニ換ヘ給スルコトヲ得

第八十六條 糧食ヲ給スルニ當リ毎日ノ食數十食以上ナルトキハ其ノ十分ノ一ノ食數ニ對シ嗜好食料ヲ給シ適宜食品ヲ買辦セシム但シ第八十條第七號又ハ第八號ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 現品ヲ以テ糧食ヲ給シ難キトキ又ハ生徒ニ夏季冬季ノ休暇ヲ與フルトキハ其ノ食數ニ應シ食料ニ換給スルコトヲ得

第八十八條 願ニ依リ艦船便乗又ハ入院治療ヲ許可シタル者、旅費ノ給與ヲ受ケ艦船ニ乗組ミタル者其ノ他自ラ食事ヲ調辦スルコト能ハサル爲特ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト海軍大臣ニ於テ認メタル者ニハ糧食ヲ給スルコトヲ得

前項ニ依リ糧食ヲ給シタルトキハ其ノ食料ヲ辨償セシム

第八十九條 第七十九條ノ二及第八十六條乃至第八十八條ノ食料ハ海軍大臣之ヲ定ム

第九十條 艦船航海ヲ爲ストキハ豫定日數以內、其ノ他ノ場合ニ於テハ一箇月分以內ノ食料ヲ前金渡スルコトヲ得但シ交通不便ノ地方ニ於テ給スル食料ニ限リ六箇月分以內ニ於テ前金渡スルコトヲ得

第九章 治療

第九十一條 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨トス但シ健康保險法ニ依ル保險給付又ハ之ニ相當スル共濟組合ノ給付ヲ受クル者ニ對スル費用ハ此ノ限ニ在ラス

一 生徒、學生、海兵團、航空隊ニ於テ教育中ノ豫備練習生及下士官並公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リタル准士官以上、候補生、軍屬及職工人夫ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

二 生徒、學生、海兵團、航空隊ニ於テ教育中ノ豫備練習生下士官兵、艦團隊要港部勤務ノ軍人軍屬及拘禁中ノ常人並公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル准士官以上候補生軍屬職工人夫ヲ當該艦團其ノ他各部ノ治療所ニ收療スルトキ

三 外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ艦船乗組ノ軍人、軍屬ヲ海軍病院ニ收

療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

四 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人ヲ所在ノ病院又ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

五 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル軍人軍屬ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

第九十二條 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨ト爲スコトヲ得

一 難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ收療スルトキ

二 局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ従事スル者ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ收療スルトキ

三 外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ收療スルトキ

四 海軍大臣ニ於テ海軍病院ニ收療スル外國軍人ノ治療費ヲ官費支辨ト爲スノ必要アリト認メタルトキ

五 前條第一號又ハ第二號ニ該當スル者治療中豫備役、後備役、免官、免役又ハ退職ト爲リ、召集ヲ解カレ其ノ他同號ニ該當セサルニ至リタル際傷痍又ハ疾病ノ爲歸郷スルトコト能ハサルトキ

六 艦船乗組ノ艦營傭人ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

第九十三條 海軍病院又ハ治療所ノ設備アル艦團其ノ他各部ニ於テ前二條ニ該當セサル者ヲ收療シタルトキハ其ノ費用ヲ辨償セシム其ノ定額ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十章 埋葬

第九十四條 生徒、學生若ハ下士官兵死亡シ又ハ艦船乗組ノ艦營傭人傭入地外ニ於テ死亡シタルト

キハ生徒、學生及下士官ニ在リテハ七十圓、兵及艦營傭人ニ在リテハ五十五圓ヲ最上限トシ官費ヲ以テ之ヲ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊ニシテ死體ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ本條ノ金額以內ヲ給ス

前項ノ死亡者ニシテ外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於テ官費ヲ以テ其ノ死體ヲ埋葬スルトキ又ハ傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ前項ノ制限ニ拘ラス特ニ實費支辨ト爲スコトヲ得

第九十五條 艦船乗組ノ准士官以上、候補生並文官及同待遇者外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島航海中死亡シ其ノ地ニ於テ死體ヲ埋葬スルトキハ其ノ費用ヲ實費支辨ト爲スコトヲ得朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル准士官以上、候補生及軍屬死亡シ在勤地ニ於テ埋葬スルトキ亦同シ

第九十六條 下士官兵入院中豫備役、後備役、免官若ハ免役ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ退院前死亡シ死體引取人ナキトキハ第九十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一章 宿舍

第九十六條ノ二 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル軍人軍屬ニハ必要ニ應ジ宿舍ヲ貸與スルトコトヲ得

附 則

第九十七條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十八條 監獄書記及監獄看守長ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル俸

給額相當ノ等級俸ヲ受クルモノトス

第九十九條 本令施行ノ際一日貳拾錢ノ手當ヲ受クル生徒ニハ在校中仍同金額ヲ給ス

第一百條 本令施行前徵募セシ志願兵ニ歸休ヲ命シタルトキハ其ノ現役滿期又ハ再服役ニ就キタル月迄扶助金ヲ給ス

本令施行ノ際現ニ一箇月壹圓七拾五錢ノ扶助金ヲ受クル志願兵ノ家族ニハ其ノ現役滿期又ハ再服役ニ就キタル月迄仍同金額ヲ給ス

第一百一條 海軍軍人俸給令、外國駐在海軍武官手當金規則、臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則、海軍生徒學生手當金規則、海軍下士卒手當金規則、海軍監獄看守海軍警査被服料給與令、海軍被服條例、海軍糧食條例、明治二十三年勅令第十五號、同勅令第五十號、明治二十四年勅令第三百三十二號、明治二十五年勅令第七十四號、明治二十六年勅令第二百七號、明治二十七年勅令第七十八號、明治二十八年勅令第五十一號、明治二十九年勅令第二十三號、明治三十年勅令第五十一號、同勅令第三百三十號、同勅令第三百三十一號、同勅令第三百六十八號、明治三十二年勅令第二號、同勅令第三百三十七號及明治三十六年勅令第六號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十三年三月勅令第一五一號)

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州在勤者海軍給與令ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年三月三十一日現在ノ休職及停職者ノ俸給ハ本令改正以前ノ給額ニ依リ之ヲ支給ス

附 則 (大正九年八月勅令第二七六號)

第一表 軍人俸給表

士					年俸
大將	各中將	各少將	各科大佐	各科中佐	
七、五〇〇〇〇	六、五〇〇〇〇	五、六〇〇〇〇	四、六〇〇〇〇	三、六〇〇〇〇	
特務士					年俸
大尉	各中尉	同	同	少尉	
二、九〇〇〇〇	二、一〇〇〇〇	一、九〇〇〇〇	一、七五〇〇〇	一、六〇〇〇〇	
下士					月俸
官一等	同	同	同	官二等	
五、四〇〇	四、九〇〇	四、四〇〇	三、九〇〇	三、四〇〇	
二、九〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、二〇〇	

本令ハ大正九年八月一日以後ノ分ニ付之ヲ適用ス

大正八年勅令第二百四十三號ハ大正九年七月三十一日限り之ヲ廢止ス

附 則 (大正十五年十一月勅令第三三七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年勅令第三百七十八號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和五年十二月勅令第二四三號)

本令ハ昭和五年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

船匠科下士官兵タリシ者ハ被服物品ノ給與ニ付テハ現ニ工術補習生(木具工業)タル者ヲ除クノ外之ヲ工術補習生(木具工業)ノ教程ヲ終ヘタル機關科下士官兵ト看做ス

第十三表 下士官兵被服物品定數表

品名	官職名	下士官 軍樂兵曹ヲ除ク	兵 軍樂兵ヲ除ク	軍樂兵曹、軍樂兵
禮衣袴				一
軍衣袴		三	三	三
夏衣袴		三	三	三
外套套		一	一	一
雨衣		一	一	一
軍帽		二	二	二
帽日覆		三	三	三
襦袢		三	三	三
夏襦袢		三	三	三
中著襟			二	
中著襟			二	
袴		二	二	二

第十二表ノ二 死亡賜金表

官階	金額	官階	金額
大將	二、五〇〇 <small>圓</small>	各科特務中尉	五六七 <small>圓</small>
各科中將	二、一六七	各科特務少尉	四六七
各科少將	一、八六七	候補生	四〇〇
各科大佐	一、五三四	准士官	四〇〇
各科中佐	一、三一七	一等下士官	二八五
各科少佐	一、〇八四	二等下士官	二五五
各科特務大尉	七八四	三等下士官	二二五

備考 准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタルモノノ死亡賜金ハ各科少尉各科特務少尉ノ額トス

死亡手當	傷病手當	一時手當
四 <small>圓</small>	七〇〇〇	二七五〇
二〇〇 <small>圓</small>	六五〇〇	二五〇〇
一八〇 <small>圓</small>	六五〇〇	二二五〇
一六五 <small>圓</small>	六五〇〇	二〇〇〇
一五〇 <small>圓</small>	六五〇〇	一七五〇

一時手當ノ支給額ハ本表ノ年額ニ志願ニ依ル現役ノ服役年數ヲ乘シタル額トス

軍 帽 前 章	掃 除 服	事 業 服 上 衣 袴	紺 足 袋	腹 卷	衣 褰	蒲 團 覆	毛 布
二	計曹掌兵及兵曹以外者 兵曹及掌理兵主 掌電信兵又ハ掌信號 兵タル兵曹、看護兵 曹ヲ除ク 機關具工術補習生(木 工業)ノ教程ヲ 兵ヲ終ヘタル者ヲ	掌電信兵タル兵曹掌 信號兵タル一等兵曹 看護兵曹及掌理兵 タル主計兵曹以外者	掌電信兵ニ非サル兵 曹工術補習生(木 工業)ノ教程ヲ終 ヘタル機關兵曹	一	一	一	三
一	兵及掌理兵以外者 兵曹及掌理兵主計 掌電信兵又ハ掌信號 兵タル兵曹、看護兵 曹ヲ除ク 機關具工術補習生(木 工業)ト爲リ又ハ 兵ヲ終ヘタル者ヲ	掌理兵タル主計兵 以外者	掌電信兵ニ非サル水 兵工術補習生(木 工業)ト爲リ又ハ 機關兵程ヲ終ヘタル	一	一	一	三
二				一	一	一	三

前 立	劍 帶	短 劍	靴 下	半 靴	帶 皮	袴 釣	手 袋	カ フ ス	襟 飾	カ ラ !	脚 絆
			八	機關兵(工術補習生(木具 工業)ノ教程ヲ終 ヘタル者ヲ除ク 其ノ他ノ者 二 三	一					四	一
			八	機關兵(工術補習生(木具 工業)ト爲リ又ハ 其ノ教程ヲ終ヘ タル者ヲ除ク 其ノ他ノ者 二 三					二		一
一	一	一	八	二	二	二	二	二		四	一

第十四表 食糧品種量額表	
品名	種日分量額
凝	脂 一六〇瓦
鹽	二一〇瓦
醬	油、酢、油類 一・二九立
砂	糖類 八六〇瓦
漬	物類 二一四〇瓦
野	菜、乾物類 六四三〇瓦
鳥	獸魚肉類 四八二〇瓦
穀	類 六九六〇瓦
麵	類 四五五〇瓦

備 考
 一 本表中帽日覆、カラ、手袋、袴釣、靴、運動靴及靴下ハ給與シ其ノ他ノ被服物品ハ之ヲ交付ス
 二 一學年修業延期ノ者ニハ本表定數ノ外更ニ軍衣袴一、夏袴一、夏袴下一、靴一及靴下九ヲ前號ノ區分ニ準シ交付又ハ給與スルコトヲ得

第十三表ノ二 海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒被服物品定數表	
品名	數量
體	白シャツ 三
軍	袴 三
夏	夏袴 三
外	事業服 七
軍	軍帽 一
帽	軍帽前章 一
襪	肩章 三
夏	袴 三

附著スヘキ被服ノ數ニ同
 同 上
 同 上

備 考
 本表ノ定數ハ常ニ之ヲ所持セシムルモノトス但シ陸上勤務ノ者ニハ紺足袋ヲ交付セサルコトアル
 ヘシ

味	類	一三四〇瓦
茶、焙	類	一一〇瓦
非常ノ勞働ニ從事セシメタルトキ其ノ他衛生上必要アルトキハ一日火酒〇・一〇八立以内ヲ給スルコトヲ得		

徵兵旅費規則

(大正九年十一月十八日內務省令第三十八號公布
昭和六年八月內務省令第三十八號改正現在)

明治三十年十月內務省令第三十二號徵兵旅費規則左ノ通改正ス

第一條 徵兵旅費ハ左ノ場合ニ於ケル旅行者ニ對シ各其ノ順路ニ依リ之ヲ支給シ官ノ都合其ノ他已ムヲ得サル事由ノ爲順路ニ依リ難キトキハ實際ノ經路ニ依リ之ヲ支給ス但シ徵兵検査ヲ受クル爲

居住地所在ノ徵募區以外ノ徵募區ニ旅行シタル者及其ノ附添人ニ付テハ(兵役法施行令第七十九條ノ場合ヲ)徵兵検査ヲ受クル徵募區内ノ分(但シ當該徵募區内ノ本籍地又ハ寄留地ヨリ聯テ除ク)ヲ支給セス

- 一 壯丁徵兵検査ヲ受クル爲旅行シタルトキ又ハ其ノ壯丁精神病若ハ不具癡疾等ノ爲保護人之ニ同伴シタルトキ
- 二 抽籤總代人抽籤ヲ行フ爲旅行シタルトキ

- 三 壯丁ノ父兄徵兵署ノ召喚ニ應シ旅行シタルトキ
- 四 現役兵入營ノ爲旅行シタルトキ又ハ其ノ現役兵精神病若ハ不具癡疾等ノ爲保護人之ニ同伴シタルトキ

第二條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃ノ各其ノ最低賃金(通行稅、船賃、及棧橋賃ヲ含ム)ニ相當スル額ヲ支給シ陸路旅行ニハ一里毎ニ陸路雜費十錢ヲ支給ス但シ陸路旅行ニ付テハ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

鐵道八十五軒、水路五十海里以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路又ハ航路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限りニ在ラス
鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第三條 宿泊料ハ一夜ニ付一圓五十錢トシ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス
水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ船賃中ニ食費ヲ含マサルトキ又ハ官用ノ船泊ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料一夜ニ付一圓ヲ支給ス

第四條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ官ノ都合其ノ他已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十軒、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第五條 片道三里未滿ノ陸路旅行ニ在リテハ陸路雜費ヲ支給セス
一 旅行ニシテ陸路及鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ十三軒、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ノ割合ニ依リ計算シ三里未滿ノ陸路旅行ニ當ルトキハ其ノ陸路ニ對シテハ陸路雜費ヲ支給セス

第六條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、陸路雜費、車馬賃ヲ支給セス
第七條 不具癡疾傷痍疾病等ノ爲歩行シ能ハサルトキハ其ノ陸路旅行ニ付テハ一里毎ニ車馬賃五十
錢ヲ支給ス但シ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス
前項ノ場合ニ於テハ陸路雜費ヲ支給セス

第八條 旅行中死亡シタルトキハ其ノ居住地ニ到ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス此ノ場合ニ
於テハ陸路旅行ニ付テハ前條ノ例ニ依ル

第九條 旅費ヲ請求スルニ當リテハ已ムテ得サル事由ニ因リ迂回若ハ滞在シタル場合ニ在リテハ其
ノ他ノ市町村長(東京、京都、大阪、名古屋、横濱)若ハ之ニ準スヘキ者、警察官吏又ハ附添吏員等ノ證
明書ヲ添付スヘシ但シ傷痍疾病ノ爲滞在シタルトキハ醫師ノ診斷書又ハ附添吏員ノ證明書ヲ添付
スヘシ

第七條ノ車馬賃ノ支給ヲ受ケントスルトキハ醫師ノ診斷書又ハ附添吏員ノ證明書ヲ添付スヘシ
第十條 朝鮮、臺灣、樺太、關東州其ノ他外國内ニ於ケル旅行ニ在リテハ陸路雜費ハ一里ニ付二十
錢、宿泊料一夜ニ付三圓、車馬賃一里ニ付一圓ヲ支給ス

第十一條 陸路雜費又ハ車馬賃ハ其ノ定額ヲ異ニスルトキハ各別ニ之ヲ通算ス

附 則

本則ハ大正九年六月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

附 則

本則ハ大正十年一月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

(大正十年三月內務省令第一一號)

附 則

本令ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍内國旅費規則

(昭和二年八月十五日海軍省令第十五號公布
昭和五年七月海軍省令第六號改正現在)

海軍内國旅費規則左ノ通改正ス

海軍内國旅費規則

第一章 總 則

第一條 海軍省經費支辨ニ屬スル公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スル者ニハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 生徒、學生、下士官兵、海兵團ニ入團中ノ豫備練習生、艦營傭人及其ノ他公務ニ原因シ傷
痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者療養ノ爲旅行ヲ命セラレタルトキハ公務ニ依ル旅行ト看做ス

第三條 旅費ハ鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族
移轉料トス

第四條 旅費ハ第一表ノ等級ニ從ヒ之ヲ支給ス

第五條 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ天災其ノ他已ムテ得サル事故ノ爲順路ニ依ル能ハサル場
合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

本令ニ順路トハ便利ナル捷路ヲ云ヒ鐵道、軌道、汽船、車馬ノ順序ニ依リ之ヲ利用スヘキモノトス但シ所要時間旅費額共ニ少額ナル場合ハ之ヲ順路トス

第六條 旅行中私事ニ因リ許可ヲ得テ迂路ヲ經過スルトキハ順路ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅行中他ノ公務ヲ以テ迂路ヲ經過スルトキハ順路ヲ離レテヨリ順路ニ復スル迄旅費ヲ區分計算ヲ爲シ得ル場合ニ限リ該用務相當ノ旅費ヲ支給ス

第七條 私事旅行中ノ者ヲ特ニ公務ニ從事セシメタルトキハ其ノ間日當及宿泊料ヲ支給ス

第八條 新ニ任用、採用又ハ囑託ノ爲召喚セラレタル者ニハ其ノ等級ニ依リ出張ノ例ニ準シ勤務地迄ノ旅費ヲ支給ス

前項ノ者官ノ都合ニ依リ任用、採用又ハ囑託セララルルニ至ラスシテ歸還スルトキハ其ノ豫定等級ニ依リ出張ノ例ニ準シ歸還地迄ノ旅費ヲ支給ス

第九條 一日中旅費ノ定額ヲ異ニスルトキハ其ノ多額ニ付之ヲ支給ス

第十條 旅行中任官進級等ニ依リ旅費等級ニ異動ヲ生シタルトキハ辭令ノ日ノ翌日ヨリ新等級ニ依ル旅費ヲ支給ス但シ前金拂ニ係ル旅費ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 私事ノ爲旅行中ノ者轉勤、轉雇、轉備若ハ出張ヲ命セラレ待命休職若ハ停職ト爲リ又ハ新ニ任用セラレ其ノ他ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ所在地ヨリ目的地ニ到ル旅費額ト勤務地(艦船乗員ニ在リテハ該命令受領以後ニ於ケル最近ノ該艦船所在地)、駐在地又ハ居所ヨリ目的地ニ到ル旅費額トヲ比較シ其ノ少額ニ付之ヲ支給ス

艦船乗員ニシテ私事ノ爲旅行中ノ者指定歸艦地以外ノ地ニ在ル艦船ニ歸役スル場合ニハ所在地ヨ

リ目的地ニ到ル旅費額カ所在地ヨリ指定歸艦地ニ到ル旅費額ヨリ多キ場合ニ限リ其ノ差額ヲ支給ス

公務旅行、駐在中ノ者轉勤ヲ命セラレ又ハ待命、休職若ハ停職ト爲リ其ノ地ヨリ直ニ新任地或ハ所在地ニ旅行スルトキハ其ノ地ヨリ旅費ヲ支給ス

待命、休職又ハ停職中ノ者自己ノ便宜ニ因リ認許ヲ經テ變更セル所在地ニ旅行スル場合ハ旅費ヲ支給セス

第十二條 在勤廳所在又ハ乗組艦船碇泊ノ市町村内ニ止マル旅行ニハ本令中特ニ定ムル場合ノ外旅費ヲ支給セス

第十三條 前金拂ニ係ル旅費ニシテ天災、自己ノ重大ナル過失ニ因ラサル傷痕、疾病ノ他已ムヲ得サル事故又ハ特命ニ由ル滞在又ハ經路ノ變更等ノ爲最初ヨリ通算シテ日數、夜數ヲ増加シタルトキハ其ノ日數、夜數ニ應シテ定額ヲ支給シ鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃ニシテ其ノ實費ヲ支辨シ能ハサルニ至リタルトキハ其ノ不足額ヲ支給ス

第十四條 旅費支給上左記各號ノ地ヲ勤務地ト看做ス

- 一 陸上各廳勤務者ニ對シテハ該勤務廳所在地
- 二 待命、休職、停職ノ者ニ對シテハ指定ノ所在地、滞在地ノ指定ナキ者ニ對シテハ特務士官、准士官ニ在リテハ在籍地、其ノ他ニ在リテハ東京
- 三 大使館又ハ公使館附武官、外國駐在員及造船造兵監督事務ニ從事スル者ニ對シテハ東京
- 四 海軍工作廳ニ於テ建造スル艦船ノ艤裝員ニ對シテハ該工作廳所在地、其ノ他ノ艦船ノ艤裝員

ニ對シテハ東京

- 五 艦隊又ハ戰隊司令部職員及司令部附ニ對シテハ該旗艦所管ノ鎮守府所在地但シ特務士官、准士官以下ノ軍人ニ在リテハ在籍ノ鎮守府所在地
- 六 艦船乗員ニ對シテハ該艦船所管ノ鎮守府所在地
- 七 陸上部隊學校附屬艦船乗員ニ對シテハ該艦船所屬部隊學校所在地
- 八 陸上各廳ニ於テ主タル廳ト所在地ヲ異ニスル其ノ出張所、分遣隊、送信所、練習部(科)等ニ常時勤務ヲ命セラレタル者、本務廳所在地外ノ兼務廳ニ於テ常時服務ゼシメラルル者、一箇年以上ノ豫定ヲ以テ所屬廳所在地外ニ修學、研究等ノ爲派遣セララルル者並派遣勤務員及承命服務者ニ對シテハ其ノ服務地

第十五條 所轄長ハ旅行ノ性質土地ノ狀況等ニ依リ海軍大臣ノ認許ヲ經テ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ一部若ハ全部ヲ支給セサルコトヲ得

第二章 鐵道貨、軌道貨、船貨、車馬賃

第十六條 鐵道旅行ニハ鐵道貨、軌道旅行ニハ軌道貨、水路旅行ニハ船貨、鐵道軌道ニ依ラサル陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス但シ官用船車馬等ニ依リ旅行スルトキハ之ヲ支給セス

第十七條 鐵道貨ハ左記ノ區別ニ依ル旅客運賃及急行料ニ依リ之ヲ計算ス

- 一 一、二、三等車ヲ運轉スル線路ニ在リテハ旅費等級五等以上ノ者ハ一等、六等乃至八等ノ者ハ二等、九等以下ノ者ハ三等
- 二 二、三等車ノミヲ運轉スル線路ニ在リテハ旅費等級八等以上ノ者ハ二等、九等以下ノ者ハ三等

等

三 三等車ノミヲ運轉スル線路ニ在リテハ總テ三等

四 行軍、演習、舍營移轉等ノ隊伍旅行ニ在リテハ前各號ノ定ムル列車ノ運轉ニ應シ旅費等級二
等以上ノ者ハ一等、六等以上ノ者ハ二等、其ノ他ハ三等

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事由ニ依リ用務廳長ノ指定ニテ上級車ニ乗車スルトキハ其ノ等級トス

旅客運賃ハ第二表ニ依リ之ヲ支給ス

急行料ハ旅客運賃ニ相當スル等級ニ依リ急行券有效區間毎ニ八十五軒以上ナルトキハ普通急行料、百七十軒以上ニシテ實際乗車ノ必要アリタルトキハ特別急行料ヲ支給ス但シ前金拂ニ係ル旅費ニ付テハ特別急行料ヲ支給セス

軌道貨ハ鐵道貨ニ準シ第二表ニ依リ之ヲ支給ス

第十八條 船貨ハ其ノ等級區分鐵道貨ノ例ニ準シ旅客運賃ニ依リ計算ス急行料、寢臺料、艀舟賃、棧橋賃ハ實際之ヲ要シタル場合ニ限り加算ス但シ前金拂ノ旅費ニ在リテハ之ヲ加算セス

旅客運賃ハ定期汽船航路ニ在リテハ定價ヲ支給シ其ノ他ニ在リテハ第三表ノ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第十九條 車馬賃ハ第三表ニ依リ之ヲ計算ス

行軍、演習ノ隊伍旅行又ハ測量、各種線路工事等車馬ニ依ルヲ得サル性質ノ旅行ニハ車馬賃ヲ支給セス

第二十條 鐵道、軌道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ車馬賃ヲ支給セス但シ用務ノ都合上鐵道、軌道、船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 定額ノ船賃、車馬賃ハ各別ニ其ノ路程ヲ通算シテ之ヲ計算ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ計算ス

通算上單位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第二十二條 鐵道又ハ軌道料程ハ鐵道省若ハ鐵道經營者ノ測定ニ據ル

水路里程ハ水路部測定ノ水路里程表ニ據ル但シ之ニ據リ難キトキハ官公署又ハ該航路經營者ノ測定ニ據ル

陸路里程ハ郵便線路圖又ハ其ノ市町村原標ヲ基本トスル地方廳ノ測定ニ據ル

第二十三條 出張中ノ者其ノ滞在スル市町村内ヲ旅行スルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ經タル場合ノ外鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第二十四條 鐵道、軌道又ハ船舶ニ乗降若ハ乗換ノ場合ニ於テ其ノ里程一里（發著地ノ市町村ニ於テハ陸路三里水路六海里）ニ滿タサルモノハ總里數ニ算入セス

前項ノ里程ハ旅行者現ニ發著スル所ノ官公衙驛所又ハ字ノ中央ヲ基本トス

第二十五條 旅行ヲ命セラレタル者旅行終了前命令ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未タ旅行ヲ爲ササル區間ノ鐵道賃、軌道賃又ハ船賃ノ拂戻ヲ受クルコト能ハサルトキハ之ヲ支給ス

第三章 日當、宿泊料、食卓料

第二十六條 日當ハ日數、宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ陸上宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ水路旅行ニ於テ船賃ノ要否ニ拘ラス食費ノ支拂ヲ要スル場合夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十七條 旅行日數ハ出張地ニ於ケル用務滞在日數及天災其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲要シタル日數ヲ除キ鐵道旅行ハ出發ノ當日ハ三百三十軒其ノ後ハ四百八十軒、軌道旅行ハ三百三十軒、水路旅行ハ出發ノ當日ハ百海里其ノ後ハ百五十海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス

各行程ニ端數ヲ生シタルトキハ前項ノ割合ニ依リ換算シテ日數ヲ計算シ一日未滿ハ之ヲ一日トス

前金拂トシテ支給スル日當、宿泊料、食卓料ハ現日數ニ拘ラス前二項ノ行程ニ從ヒ之ヲ計算ス

第二十八條 日當、宿泊料、食卓料ハ第四表ニ依リ之ヲ支給ス但シ左ノ教行ニ在リテハ第五表ニ依ル

- 一 艦船試運轉、速力試驗其ノ他諸公試（艦船、兵器造修試驗検査規則ニ依リ施行スルモノ）、自差修正、艦船回航又ハ自動車運轉ニ關スル用務ヲ以テ出張スルトキ
- 二 甲飯試驗、砲彈試驗其ノ他諸實驗ニ關スル用務ヲ以テ出張スルトキ
- 三 見學又ハ學術技藝研究並講習、實習ノ爲出張スルトキ但シ之等ノ指導者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 四 造船造兵工事監督ノ用務ヲ以テ軍港、要港ニ出張スルトキ
 - 五 軍人海軍諸學校ノ受験ヲ命セラレ出張スルトキ
 - 六 豫備役、後備役又ハ歸休中ノ軍人召集セラレ旅行スルトキ
 - 七 艦船乗員許可ヲ受ケ上陸中又ハ依願旅行中艦船出航ノ爲追尾乘艦スルトキ
 - 八 行軍、演習及戰技訓練等ノ爲隊伍旅行ニ非サル旅行ヲ爲ストキ
 - 九 軍人停職ト爲リ指定滞在在地ニ旅行シ又ハ滞在在地ヲ變更セラレ其ノ地ニ旅行スルトキ
 - 十 演習、行軍以外ノ隊伍旅行ヲ爲ストキ
 - 十一 本令第二條、第八條及第五十八條ノ旅行ヲ爲ストキ
- 艦船便乗中又ハ乗組出張中ノ日當ハ總テ第五表ニ依ルモノトス
- 第二十九條** 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第五表ノ日當、宿泊料又ハ食卓料定額ノ半額以內ニ於テ宿賃、賄料及休憩料ノ實費ヲ支給ス
- 一 刑事被告人ヲ旅行セシムルトキ又ハ被告事件免訴、不起訴若ハ無罪ト爲リ復歸スルトキ
 - 二 囚人ヲ旅行セシムルトキ
 - 三 大赦、特赦、假出獄、刑ノ執行猶豫又ハ刑期滿了ニ依リ復歸ノ爲旅行スルトキ
 - 四 陸軍教化隊ニ入隊又ハ同隊ヨリ復歸スルトキ
- 第三十條** 旅程陸路六里未滿、鐵道及軌道七十八軒未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲宿泊ヲ要シタル場合ニ限り日當及宿泊料ヲ支給シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ日當定額ノ半額ノミヲ支給ス但シ旅程陸路二里未滿、鐵道及軌道二十六軒未滿、水路

- 十海里未滿ノ旅行ニハ本令中特ニ定ムル場合ノ外日當ヲ支給セス
- 艦船ニ便乗中又ハ乗組出張中ノ日當ニ付テハ前項(但書ノ場)ノ規定ヲ適用セス
- 官用ノ航空機ニ依ル旅行ヲ命セラレタル場合ニ於テ離著地點間ノ飛行距離二十四里未滿ノトキハ
- 第一項本文ニ、飛行距離十二里未滿ノトキハ第一項但書ニ準ス
- 第三十一條** 前條ノ旅行ニシテ陸路、鐵道、軌道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道軌道十三軒、水路五海里ヲ陸路一里ノ割合ニテ計算ス
- 第三十二條** 在勤廳所在又ハ乗組艦船碇泊ノ市町村內ニ出張ヲ命セラレ引續キ五時間以上公務ニ從事スル者ニハ日當定額ノ三分ノ一、八時間以上公務ニ從事スル者ニハ同定額ノ二分ノ一ニ相當スル額ヲ支給ス但シ官用ノ船車馬ニ依リ出張スル場合又ハ電車切符等ノ交付ヲ受ケ出張スル場合ニハ各其ノ半額ヲ支給ス
- 前項ノ場合ニ於テ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ經テ宿泊料定額以內ノ實費ヲ支給スルコトヲ得
- 在勤廳所在又ハ乗組艦船碇泊ノ市町村外ニシテ其ノ行程陸路二里鐵道軌道二十六軒水路十海里未滿ノ場所ニ出張ヲ命セラレ第一項所定ノ時間公務ニ從事シタル者ニハ同項所定ノ金額ト鐵道賃、軌道賃、船賃又ハ車馬賃ノ合計額トヲ比較シ其ノ多額ニ付旅費ヲ支給ス
- 第一項ノ規定ハ同一構内ニ在ル他廳ニ出張スル場合又ハ帝國議會ニ其ノ會期中ニ於テ出張スル者及事務ノ打合又ハ會議ノ用務ニ依リ出張スル者ニハ之ヲ適用セス
- 第三十三條** 行軍、演習ノ隊伍旅行ニ在リテハ第五表ノ日當、宿泊料又ハ食卓料定額ノ十分ノ六以

内ニ於テ宿賃、賄料及休憩料ノ實費ヲ支給ス但シ官ヨリ宿舍並糧食ヲ給スルトキ又ハ第十二條及第三十條第一項但書ニ該當スル旅行ノ場合ニハ休憩料トシテ一人ニ付日額十錢以内ノ實費ヲ支給ス

第三十四條 艦船便乘旅行者ニハ該艦船出航ノ日ヨリ下船スヘキ港灣ニ入港ノ日迄便乗中ノ旅費ヲ支給ス但シ便乘艦船在泊地ニ於テ陸上滞在ヲ要スル者ニ在リテハ出航前ト雖實際乘艦ノ日ヨリ之ヲ支給ス

第三十五條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ第五表ノ宿泊料ノミヲ支給ス

- 一 新ニ任用又ハ採用ノ爲召喚セラレタル者ヲ就職若ハ入校前其ノ地ニ滞在セシムルトキ
- 二 召集シタル豫備役、後備役又ハ歸休中ノ軍人ヲ部隊編入前其ノ地ニ滞在セシムルトキ
- 三 艦船乗員公務ニ依リ上陸シ用務ノ都合又ハ天災其ノ他已ムテ得サル事故ノ爲陸泊ヲ要シタルトキ但シ准士官以上候補生及文官ニ在リテハ勤務地ノ場合ヲ除ク

四 艦船乗組ノ准士官以上候補生及文官該艦船所屬軍港要港以外ノ港灣ニ於テ轉乘ノ際乘組艦船出航ヲ要スル等ノ事由ニ依リ退艦シ新ニ乘艦スヘキ艦船入港迄陸上ニ宿泊シタルトキ

前項第四號ニ該ル者在港ノ他艦船ニ便乗シタルトキハ其ノ間第五表ニ依ル便乗中ノ旅費ヲ支給ス

第三十六條 轉勤、轉雇又ハ轉備ニ際シ舊在勤應退應後其ノ地ニ滞在スル場合ニハ其ノ間日當及宿泊料ヲ支給セス

公務旅行中ノ者旅行ノ中間ニ於テ勤務地ニ滞在スルトキ亦同シ

第三十七條 第二條ニ該ル者目的地ニ於テ療養中ハ日當及宿泊料ヲ支給セス但シ官費ヲ以テ入院治療ヲ受ケサル者ニハ海軍大臣ノ認許ヲ經タル場合ニ限り第五表ノ日當、宿泊料ノ範圍内ニ於テ實費ヲ支給ス

第三十八條 公務旅行中自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非シテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ滞在治療ヲ爲ス者ニハ爲ニ増加シタル期間當該旅行ニ付本人カ受クヘキ日當、宿泊料ノ範圍内ニ於テ實費ヲ支給ス

前項ノ者官費ヲ以テ入院治療ヲ受ケ又ハ海軍ノ病室ニ入り治療ヲ受クルトキハ其ノ間日當及宿泊料ヲ支給セス

第三十九條 内地ヨリ朝鮮、臺灣、樺太ニ旅行スルトキハ初メテ其ノ港灣著船迄内地額ニ依リ朝鮮、臺灣、樺太ヨリ内地ニ旅行スルトキハ各其ノ最終港灣發船迄朝鮮、臺灣、樺太額ニ依ル但シ日當ハ朝鮮、臺灣、樺太ニ著船當日及該地發船當日共朝鮮、臺灣、樺太額ニ依ル

第四十條 長期ニ亘リ同一地ニ滞在スルトキハ日當及宿泊料ハ十一日ヨリ定額ノ一割三十一日目ヨリ定額ノ二割六十一日目ヨリ定額ノ三割百一日ヨリ定額ノ四割ヲ減シタル額ヲ支給ス但シ第三十五條、第四十一條及第四十二條ノ旅費及艦船便乗中又ハ乘組出張中ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

同一地ニ滞在中一時歸應又ハ他ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム但シ引續キ滞在地ニ在ラサルコト三十日ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 左記各號ノ一ニ該當スル者ニハ艦船ニ乗組出張スル場合ヲ除キ目的地ニ到着ノ當日ヨ

リ起算シ六日目ヨリ第七表ノ日當及宿泊料ヲ支給ス但シ第三號及第四號ニ該當スル者ニ在リテハ駐在地滞在中一時歸廳又ハ他ニ旅行シ駐在地ニ歸著シタル當日ノ外日當ヲ支給セス

一 第二十八條第三號及第五號ノ旅行ヲ爲ストキ但シ陸軍戸山學校ニ出張スル場合ヲ除ク

二 前號ノ旅行ニ附隨スル用務ヲ以テ旅行スルトキ

三 造船造兵監督官、同監督助手、同監督業務囑託員、海軍工作廳及建築局ノ職員並職工ニシテ工事監督技術指導又ハ業務補助ノ爲本邦各地ニ出張駐在スルトキ

四 海軍工作廳所在地外ノ内地ニ於テ製造スル艦船ノ機裝具製造地ニ出張駐在スルトキ

五 渠中工事等ノ爲未成艦船製造地外ニ一時回航中其ノ地ニ出張駐在スルトキ

前項ノ者一時歸廳又ハ他ニ旅行ノ上歸著シタル場合ト雖前項ノ計算ヲ更新セス但シ引續キ駐在地ニ在ラサルコト三十日ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項第四號及第五號ニ亙ル旅行期間ハ彼此通算セサルモノトス

第四十二條 水路測量ノ爲内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ出張スル者ニハ測量地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄第八表ノ日當、宿泊料又ハ食卓料ヲ支給ス但シ艦船乘員測量地ニ於テ本艦船ヲ離レ測量ニ從事スル場合ニ於テハ離艦ノ日ヨリ歸艦ノ日迄之ヲ支給ス

前項但書ニ該當スル者離艦ノ當日中ニ歸艦スルトキハ日當半額ヲ支給ス

第四十三條 旅行中艦船部隊等ニ於テ起臥シタルトキ又ハ官ヨリ宿舍ヲ供セラレタルトキ同時ニ官ヨリ食料又ハ糧食ヲ給セラレタル場合ニハ宿泊料ヲ支給セス

下士官兵及艦營傭人ニシテ旅行中前項ニ該當スル場合ニハ第五表艦船便乗中又ハ乗組出張中ノ日

當ノミヲ支給ス但シ海軍下士官兵身上取扱規則第六條ノ三ニ依リ海兵團、防備隊等ニ一時入團(隊)スル者ニハ其ノ間旅費ヲ支給セス

第四章 赴任手當、移轉料、家族移轉料、支度料

第四十四條 赴任手當、移轉料ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ支給ス

一 新ニ任用、採用又ハ囑託セラレ任地ニ旅行スル者(生徒初メテ入校ノ場合、生徒ヨリ候補生ニ採用ノ場合及兵初メテ入團ノ場合ヲ除ク)

二 轉勤、轉雇又ハ轉備ヲ命セラレ旅行スル者

三 待命、休職トナリタル者滞在地又ハ在籍地ニ赴キ若ハ滞在地ヲ變更セラレ其ノ地ニ赴クト

四 官衙、部隊又ハ艦隊戰隊司令部移轉ノ爲旅行スル者

五 兵籍ヲ轉セラレ旅行スル者

第四十五條 前條ニ掲クル者赴任旅行ヲ爲スモ勤務地ヲ轉セサルトキ又ハ艦船便乗ノミニ依ル赴任旅行ヲ爲ストキハ移轉料ノ半額ノミヲ支給ス

第四十六條 赴任手當ハ旅行ノ目的地ニ對スル定額ノ日當二日分、宿泊料二夜分ニ相當スル金額トス但シ艦船ニ赴任スル者、新任地ニ於テ官舎宿舍ノ賃與ヲ受クル者又ハ部隊學校病院ニ起臥スヘキ者ノ赴任手當ハ其ノ二分ノ一トス

移轉料ハ第六表ニ依リ之ヲ支給ス

第四十七條 家族移轉料ハ第四十四條ニ掲クル者辭令ノ日ヨリ一年以内ニ舊勤務地(初任ノ者ニ在リテハ舊居住地)

ヨリ新勤務地ニ家族ヲ移轉スル場合ニ於テ移轉ノ際之ヲ支給ス
艦船所管又ハ所屬換トナリ勤務地ヲ異ニスル場合亦同シ
舊勤務地以外ノ地ニ家族ヲ置キタル者之ヲ移轉スル場合ニ於テハ第十一條第一項ノ規定ヲ準用
ス

第四十八條 家族移轉料ハ候補生、二等兵以下ノ兵、一年未滿ノ期間ヲ以テスル囑託員及二十五歳未滿ノ雇員傭人ニハ之ヲ支給セス

前項ノ者任用又ハ進級等ニ依リ家族移轉料ヲ受クル資格ヲ有スルニ至ルモ引續キ同一勤務地ニ在ル間ハ家族移轉料ヲ支給セス

第四十九條 左記各號ノ一ニ該ル者ニ對シテハ家族移轉料ノ支給ヲ停止シ爾後轉勤其ノ他ノ事由ニ因リ更ニ支給ノ事實ヲ生シタルトキ支給停止前ノ勤務地又ハ居住地ヨリ之ヲ支給ス

一 練習又ハ研究ノ爲定員外トシテ各部ニ配置セラレタルトキ

二 外國留學ノ爲又ハ臨時講習員、補缺員トシテ鎮守府附(下士官兵ニ在リテハ海兵團補缺員)ト爲リタルトキ但シ派遣勤務員及承命服務者ニ在リテハ一年未滿ノ見込ヲ以テ配置セラレタル場合ニ限ル

三 教程一年未滿ノ學生又ハ練習生ト爲リタルトキ但シ事實上修學期間滿一年トナルヘキモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

四 一年未滿ノ豫定ヲ以テ修學又ハ研究ヲ命セラレタルトキ

五 海軍工作廳及東京所在ノ造船所以外ニ於テ製造スル艦船ノ艤裝員ト爲リタルトキ

六 造船造兵監督事務ニ從事スル者東京以外ノ地ニ駐在ヲ命セラレタルトキ

七 部外ニ配置ノ爲海軍省出仕軍令部參謀又ハ出仕若ハ鎮守府附(下士官兵ニ在リテハ海兵團補缺員)ト爲リタルトキ

八 旗艦變更ニ依リ勤務地ヲ轉スルトキ

九 遣外艦隊、練習艦隊所屬艦船及特別ノ任務ヲ以テ外國ニ派遣セララル艦船ノ乗員ト爲リタルトキ

十 朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル官衙部隊附屬艦船若ハ南洋群島警備艦船ノ乗員ト爲リタルトキ

十一 未成艦船ノ乗員ト爲リタルトキ

前項各號ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太カ舊勤務地又ハ舊居住地タル者(艦船乗員ヲ除ク)及無線電信所(東京、軍港並舞鶴要港所在ノモノヲ除ク)、大湊要港部、湊海軍病院又ハ大島軍需支部カ舊勤務地タル者ニハ之ヲ適用セス

第五十條 家族移轉料ハ本人ト同一戸籍内ニ在リテ同居スル祖父母、父母及妻子ヲ通シテ五人限リ之ヲ支給ス

第五十一條 家族移轉料ハ本人家族移轉ノ資格ヲ發生シタル當時ノ旅費等級ニ從ヒ家族一人毎ニ鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃、第四表日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當(第四十六條ニ定ムル基本額ニシテ減額ヲ含マス)ノ三分ノ二ニ該當スル額トス但シ十二歳未滿ノ子ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付キ支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス

第五十二條 演習等ノ爲臨時勤務ヲ命セラレ赴任又ハ轉勤スル者ニハ赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給セス

第五十三條 赴任手當、移轉料ハ赴任旅行ノ行程及新舊勤務地間ノ距離共ニ鐵道及軌道二十六軒未滿、水路十海里未滿、陸路二里未滿ナルトキハ之ヲ支給セス但シ海軍大臣ノ認可ヲ經テ特ニ定額以內ノ金額ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ旅程各路ニ互ルトキハ第三十一條ニ據リ計算ス

第五十四條 朝鮮江原道、平安南道、平安北道、咸鏡南道、咸鏡北道又ハ樺太ニ在ル官衙部隊ニ赴任スル者ニハ下士官兵ヲ除ク外第六表ニ依リ支度料ヲ支給ス

前項ノ官衙部隊ニ勤務スル下士官ニシテ准士官ニ進級シ引續キ在勤スルトキハ其ノ際赴任ノ例ニ準シ支度料ヲ支給ス

第五十五條 十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太ニ出張スル者ニハ前條支度料ノ半額ヲ支給ス但シ該地ニ在ル艦船ヨリ出張スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 前二條ノ規定ニ依ル支度料又ハ海軍給與令第六十三條ニ依ル支度手當ノ支給ヲ受ケタル者赴任若ハ出張後一年以內ニ於テ再ヒ赴任又ハ出張スルトキ及海軍南洋群島關東州南滿洲旅費規則並海軍外國旅費規則ニ依リ支度料ヲ受ケ旅行中朝鮮、樺太ニ赴任若ハ出張スルトキハ支度料ヲ支給セス

第五十七條 支度料ヲ受クヘキ者出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ヲ要セサルニ至リタルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ經テ支度料定額以內ノ金額ヲ支給スルコトヲ得

赴任若ハ出張ヲ免セラレ前項ノ支度料ヲ受ケタル者一年以內ニ於テ更ニ赴任若ハ出張スルトキ及第五十五條ニ依リ支度料ノ支給ヲ受ケタル者一年以內ニ於テ第五十四條所定ノ地方ニ赴任スルトキハ現ニ支給ヲ受クヘキ支度料ノ全額ニ達スル迄其ノ差額ヲ支給ス

第五章 退官退職者旅費、遺族手當

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當シ辭令ノ日ヨリ三十日以内ニ出發歸住スルトキハ公務ニ依リ旅行スル者ト看做シ本官又ハ前官職相當ノ旅費ヲ支給ス

一 軍人現役ヲ離レ又ハ歸休ト爲リ若ハ召集ヲ解カレタルトキ及本分ニ背キタル事由ニ因ルニ非スシテ免官免役ト爲リタルトキ

二 兵學校、機關學校及經理學校生徒品行不良又ハ怠惰ニ因ルニ非スシテ退校ヲ命セラレタルトキ

三 朝鮮、臺灣、樺太在勤又ハ無線電信所(東京、軍港、大湊及舞鶴要港所在ノモノヲ除ク)、大島軍需支部勤務若ハ艦船乗組ノ文官同待遇者不都合ノ所爲又ハ自己ノ便宜ニ因ルニ非スシテ休職、退官、退職若ハ廢官ト爲リタルトキ

四 艦船乗組ノ雇員傭託員不都合ノ所爲又ハ自己ノ便宜ニ因ルニ非スシテ採用地又ハ囑託セラレタル地以外ニ於テ解雇解備セラレ又ハ囑託ヲ解カレタルトキ

五 朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル雇員傭人及囑託員不都合ノ所爲又ハ自己ノ便宜ニ因ルニ非スシ

テ解雇、解備若ハ囑託ヲ解カレ内地ニ歸住スルトキ但シ内地ヨリ轉雇、轉備又ハ新ニ採用囑託セラレタル者ニ限ル

六 前三號ニ規定スル以外ノ軍屬、囑託員公務旅行中不都合ノ所爲又ハ自己ノ便宜ニ因ルニ非スシテ休職、退官、廢官、解雇、解備トナリ又ハ囑託ヲ解カレタルトキ

前項ノ旅費ハ勤務地(旅行中及艦船乗組中ノ者ニ在リテハ本人現在地)ヨリ歸住目的地迄之ヲ支給ス但シ私事ノ爲旅行中ノ者ニ付テハ勤務地又ハ本人現在地ヨリ原籍地ニ至ル旅費ヲ、第六號ニ該當スル者ニ付テハ本人現在地ヨリ勤務地ニ至ル旅費ヲ、其ノ他ノ者ニ付テハ勤務地(旅行中及艦船乗組中ノ者ニ在リテハ本人現在地)ヨリ原籍地ニ至ル旅費ヲ超ユルコトヲ得ス

天災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ又ハ事務引繼殘務整理等ノ爲第一項ノ期間内ニ出發スルコト能ハサルトキハ所屬長官ノ認許ヲ經テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條ノ二 事務引繼殘務整理等ノ爲退官退職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官職相當ノ旅費ヲ支給ス

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遺族手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス但シ官費ヲ以テ屍體ヲ輸送スルトキハ之ヲ支給セス

一 現役(待命、休職、停職又ハ歸休中ヲ除ク)及召集中ノ軍人並ニ兵學校、機關學校及經理學校生徒死亡シタルトキ

二 朝鮮、臺灣、樺太在勤又ハ無線電信所(東京、軍港、大湊及舞鶴要港所在ノモノヲ除ク)、大島軍需支部勤務ノ文官同待遇者死亡シタルトキ

三 艦船乗組ノ軍屬、囑託員及職工死亡シタルトキ

四 朝鮮、臺灣及樺太在勤ノ雇員傭人囑託員及職工死亡シ内地ニ於テ埋葬スルトキ但シ内地ヨリ轉雇轉備又ハ採用囑託セラレタル者ニ限ル

五 前三號ニ規定スル以外ノ軍屬、囑託員並ニ職工公務旅行中死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル遺族手當ハ死亡ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ遺族故ナクシテ請求セサルトキハ之ヲ支給セス

第六十條 遺族手當ハ本人ノ旅費等級ニ從ヒ勤務地(旅行中及艦船乗組中ノ者ニ在リテハ本人死亡地)ヨリ埋葬地迄ノ鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃及第二十七條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル第五表ノ日當、宿泊料又ハ食卓料ニ相當スル金額トス但シ鐵道賃、船賃ニ付テハ急行料、寢臺料、舟賃、棧橋賃ヲ加算セス

第五十八條第二項但書ノ規定ハ本人死亡地ヲ本人現在地トシ遺族手當ノ支給ニ付之ヲ準用ス遺族手當ヲ支給スヘキ遺族ノ順位ハ配偶者、直系卑族、直系尊族、兄弟姉妹及同一戸籍内ニ在ル他ノ親族ノ順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

【民法第九百七十條】被相続人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト爲ル

- 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
- 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
- 三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

- 四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
- 第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス
- 民法第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス
- 前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 【民法第九百八十四條】第九百八十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
- 民法第九百八十二條 法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ父アルトキハ父、父アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス
- 第一 配偶者但家女ナルトキ
- 第二 兄弟
- 第三 姉妹
- 第四 第一號ニ該當セサル配偶者
- 第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

第六章 雜則

第六十一條 職務上上官ニ隨伴ヲ要スル者ノ旅行ノ公私ハ上官ノ旅行用務ニ依リテ之ヲ定ム

第六十二條 數種ノ用務ヲ以テ旅行スル場合ニ於テ用務毎ニ旅費ヲ區分計算スル必要アルトキハ新

用務ニ就キタル日ヨリ該用務ニ對スル旅費ヲ支給ス但シ前金拂ノ部分ニ付テハ其ノ額ヲ變更スルコトナシ

第六十三條 前金拂トシテ支給スル旅費ハ支出ノ日ヲ以テ會計年度ヲ區分シ其ノ他ノ場合ニ於テ年度ノ最終日ヲ以テ區分スルコト困難ナル鐵道賃、軌道賃、船賃ハ其ノ乗車券又ハ乗船券ヲ購入セ

ル日ノ屬スル年度ノ所屬トス

第六十四條 旅行中傷痍疾病又ハ天災其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲途中滞在若ハ經路變更ヲ爲シタルトキハ其ノ事實ノ證明書ヲ提出スルニ非サレハ之カ爲増加シタル旅費ノ洩給ヲ受クルヲ得

第六十五條 家族移轉料ノ支給ヲ受ケントスル者ハ移轉スヘキ家族ノ續柄、名(子ニ在リテハ年齢共)、出發地、移轉先及移轉ノ時期ヲ記シタル請求書ヲ提出シ所轄長(轉勤、轉雇又ハ轉傭ノ際家族ヲ隨伴スル者ニ在リテハ舊所轄長)ノ承認ヲ受クヘシ

家族移轉料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ移轉了リタルトキハ一箇月以内ニ移轉完了ノ時日及移轉セ

ル場所ヲ所轄長ニ届出ツヘシ

第六十六條 旅費ハ當該用務廳ニ於テ之ヲ支給ス但シ前金拂、概算拂ノ旅費ハ旅行者ノ出發廳ニ於テ之ヲ支給ス

軍人軍屬證人、鑑定人等トシテ海軍軍法會議ニ呼出サレタル者ノ旅費ハ其ノ事項職務ニ關スル場合又ハ呼出サレタル者下士官兵ナルトキハ本人ノ所轄廳ニ於テ之ヲ支給シ其ノ他ノ場合ハ當該軍法會議ニ於テ之ヲ支給ス

海軍軍法會議間ノ囑託事件ニ付證人、鑑定人等トシテ呼出サレタル者ノ旅費ハ受託軍法會議ニ於テ之ヲ支給ス

第六十七條 概算拂ニ係ル旅費ハ其ノ支給應ニ於テ精算シ過剩アルトキハ該應ニ返納セシメ追給ヲ要スル場合ニ於テハ本人ノ所屬廳ニ通牒シ該廳ニ於テ追給スルコトヲ得

本令第十三條ニ依ル旅費ノ追給ニ關シテモ亦右ニ同シ

第六十八條 海軍給與令施行細則第六十九條乃至第七十三條ノ規定ハ本令ニ依ル旅費ノ通牒ニ付之ヲ準用ス

【海軍給與令施行細則第六十九條】軍人軍屬所屬ヲ轉シタルトキハ前所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ハ給與上必要ナル事項ヲ詳記シタル通牒(第十式)ニ通テ作リ其ノ一通ヲ現所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ニ添付シ一通ヲ證憑書類ニ添付スヘシ

前項ノ通牒ヲ受ケタル仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ハ該通牒ヲ證憑書類ニ添付スヘシ

【同第七十條】俸給、加俸及手当ノ支給日ニ於テ之ヲ支給シタル後又ハ俸給ノ家族渡ヲ爲シ若ハ俸給及食卓手当ノ前金渡ヲ爲シタル後所屬ヲ轉シタル軍人軍屬ニハ支出科目(目)ニ異動ヲ生シ又ハ過渡ト爲リタルモノヲ除クノ外特ニ追徴ヲ要セス其ノ旨前條通牒ニ記入シ現所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ニ通牒スルコトヲ得

【同第七十一條】軍人軍屬所屬ヲ轉シタル後追給追徴又ハ控除ヲ要スルモノアルトキハ前所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏其ノ事由ヲ詳記シタル通牒(第十一式)ヲ作リ原符ヲ留置キ甲乙號ヲ現所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ニ送付シ追給追徴又ハ控除セシムルコトヲ得但シ費途ノ款ヲ異ニスルトキハ追徴ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス

前項ノ通牒ヲ受ケタル仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ハ追給ニ在リテハ六日以内、追徴ニ在リテハ其ノ月末日迄、控除ニ在リテハ相當期日內ニ處分ヲ了シ式ノ如ク甲號ニ記入切離シテ之ヲ返付シ

乙號ハ追徴ニ屬スルモノヲ除クノ外證憑書類ニ添付スヘシ

【同第七十二條】前條第一項ノ通牒ヲ受ケタル仕拂命令官又ハ現金前渡官吏左ノ各號ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ付箋シ該通牒ヲ返付スヘシ

一 本人他ニ轉出シタルトキ

二 處分シ能ハサル事由アルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ通牒ヲ送付シタル仕拂命令官又ハ現金前渡官吏遠隔ノ地ニ在リテ該通牒ヲ本人現所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ニ轉送スルヲ便宜トスルトキハ之ヲ轉送シ其ノ旨該通牒ヲ送付シタル仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ニ通知スヘシ

【同第七十三條】前條第一項ニ依リ通牒ノ返付ヲ受ケル仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ハ其ノ第一號ノ場合ニ在リテハ更ニ本人現所屬ノ仕拂命令官又ハ現金前渡官吏ニ通牒ヲ送付シ第二號ノ場合ニ在リテハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

附 則

第六十九條 本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條 本令施行ノ日ノ前後ニ跨ル旅行ニ對スル移轉料、赴任手當及家族移轉料ハ前金拂ニ係ルモノヲ除クノ外本令ニ依リテ之ヲ支給シ支度料ハ從前ノ規定ニ依リ之ヲ支給ス

第七十一條 從前家族移轉料ノ支給ヲ停止セラレタル者ハ本令ノ施行ニ依リ之カ支給ヲ受クルコトヲ得ルニ至リタルトキト雖引續キ之カ支給ヲ停止ス

前項ノ者本令施行後轉勤其ノ他ノ事由ニ因リ家族移轉料支給ノ事實ヲ生シタルトキハ支給停止前ノ勤務地又ハ家族居住地ヨリ之ヲ支給ス

第七十二條 本令中期間ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ本令施行以前ノ日數ヲ通算ス
大正九年海軍省令第十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和五年六月海軍省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際家族移轉料支給停止中ノ者ノ家族移轉料支給ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ノ退官退職等ニ依リ歸郷スル者ノ旅費支給ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前死亡シタル者ノ遺族手當ノ支給ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第五十九條第二項ニ規定

スル期間ノ計算ニ付テハ本令ニ依リ本令施行以前ノ日數ハ之ヲ通算セス

帝國在郷軍人會規約

(大正十四年三月三十日庶務第二百六十八號公布
昭和三年會則第五百五十五號改正現在)

第一章 總 則

第一條 本會ハ帝國在郷軍人會ト稱ス

第二條 本會ハ皇族ヲ總裁ニ奉戴ス

第三條 本會ハ最高ノ顧問トシテ會老ヲ置キ總裁之ヲ囑託ス

第四條 本會ハ陸軍大臣及海軍大臣ノ監督ヲ受ク

第五條 本會ハ事務所ヲ東京市ニ置キ之ヲ本部ト稱ス

第六條 本規約中郡市、町、村トアルハ各左記下欄ノ地ニ相當ス

郡 北海道、樺太及臺灣ニ在リテハ支廳長ノ管轄區

郡守、島司ノ管轄區

市 東京市、京都市、大阪市、名古屋市及横濱市ニ在リテハ區

小笠原島

府尹、市尹ノ管轄區

町村 町村ニ準スヘキモノ

第七條 本規約中將校同相當官トアルハ陸軍將校同相當官及海軍士官特務士官ヲ、下士兵卒トアルハ陸軍下士兵卒及海軍下士官兵ヲ併稱ス

第二章 目的及事業

第八條 本會ハ 聖旨ヲ奉體シテ軍人精神ヲ鍛鍊シ軍事能力ヲ増進スルヲ以テ本旨トシ延テ社會ノ公益ヲ圖リ風教ヲ振作シ恒ニ國家ノ干城國民ノ中堅タルノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス

第九條 前條ノ目的ヲ達スル爲本會ハ左ノ事業ヲ行フ但シ本會ノ目的ニ適合スル他ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 勅諭、勅語、詔書ノ奉讀式ヲ行ヒ又四方拜、紀元節、天長節、明治節及廉アル宮中ノ式典當日ハ遙拜式ヲ行フコト
- 二 軍人精神ノ鍛鍊、軍事學術ノ研究及演練並體育ヲ行フコト

- 三 本會創立記念日ニ式典ヲ行フコト
- 四 過去戰役ヲ記念シ戰役死亡者及公務ニ起因スル死亡者ノ祭典ヲ幫助シ且其ノ遺族並公傷病兵ヲ優遇スルコト
- 五 會員ヲシテ應召準備ヲ整頓セシムルコト及召集事務ヲ幫助シ又ハ徵兵検査並簡閱點呼ノ際參會者ノ指導ニ協力スルコト
- 六 現役兵又ハ補充兵トシテ入營若ハ入團スル者及補充兵ニシテ未タ入營セサル者ノ軍事教育ヲ行ヒ且入退營(團)者ヲ送迎スルコト
- 七 青年訓練所ノ訓練ヲ幫助シ且青年團員及少年團員ノ誘掖指導ニ協力スルコト
- 八 風教ノ改善ニ協力シ、社會公益事業ヲ幫助シ且公安ノ維持並非常時ニ於ケル救護事業ヲ援助スルコト
- 九 會員ノ一致和諧ヲ圖リ延テ社會ノ融和協調ノ美ヲ助成シ併テ會員相互扶助ノ途ヲ講スルコト
- 十 會員及其ノ家族並現役者歸休者ハ會中ニ含ムノ家族ヲ必要ニ應シ扶助シ又會員及現役者歸休者ハ會中ニ含ムノ葬儀ニ會葬シ尙其ノ遺族ヲ慰藉スルコト
- 十一 精神修養、軍事及一般智識ノ増進並團體、會員ノ指導連絡ノ爲講演ヲ行ヒ雜誌及圖書等ヲ發行スルコト

第十條 本會ハ第八條ノ目的ヲ以テ組織セラレタル聯合支部以下各團體ヲ聯合統一スルモノトス

第十一條 本會ハ本會ノ事業ト其ノ目的又ハ種類ヲ同ウスル事業ヲ行フモノ在ルトキハ成ルヘク之

ト協同シ若ハ之ヲ幫助スルモノトス

第三章 組織

第十二條 本會ハ聯合支部及聯合支部ヲ組織セサル支部並支部ヲ組織セサル聯合分會又ハ分會ヲ以テ組織ス

第十三條 聯合支部ハ各師管ノ區域内ニ在ル支部ヲ以テ組織ス

朝鮮ニ在リテハ各師團管轄區域内間島及琿春ニ在ルモノハ第二、臺灣、關東州及滿洲ニ在リテハ各師團管轄區域内ニ含ム、臺灣、關東州及滿洲ニ在リテハ各管轄區域内ニ在ル支部及支部ヲ組織セサル聯合分會又ハ分會ヲ以テ聯合支部ヲ組織スルコトヲ得

第十四條 支部ハ各聯隊區ノ區域内ニ在ル聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ヲ以テ組織ス
兩聯隊區ノ區域ニ互ル大ナル市ニ在リテハ必要アル場合ニ於テハ聯合支部長ノ承認ヲ經テ聯隊區ノ區域ニ依ラス當該市内ニ在ル聯合分會又ハ分會ヲ以テ別ニ支部ヲ組織スルコトヲ得

海外地朝鮮、臺灣、關東州、滿洲、支那其ノ他外國ノ領土ヲ稱ス以下之ニ同シニ在リテハ特ニ定ムル區域内ニ在ル聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ヲ以テ支部ヲ組織スルコトヲ得

第十五條 聯合分會ハ各郡ノ區域内ニ在ル分會ヲ以テ組織ス

工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所又ハ海外地等ニ在リテハ必要アル場合ニ於テ特ニ定ムル區域内ニ在ル分會ヲ以テ聯合分會ヲ組織スルコトヲ得

第十六條 分會ハ各市町村ノ區域内ニ在ル會員ヲ以テ組織ス
工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ニ在リテハ其ノ所屬ノ會員ヲ以テ又海外地ニ在リテハ

其ノ地居住ノ會員ヲ以テ分會ヲ組織スルコトヲ得

第十七條 前二條ノ外必要アル場合ニ於テハ支部長ノ承認ヲ經テ郡ニ在リテハ其ノ區域ヲ以テ數個ノ聯合分會又ハ隣接郡ノ區域若ハ其ノ一部ヲ合シテ一個若ハ數個ノ聯合分會ヲ、市町村ニ在リテハ數個ノ分會ヲ設ケ又當該市町村毎ニ一個市ニ在リテハ一個又ハ數個ノ聯合分會ヲ置クコトヲ得

第十八條 海外地ニ於テ聯合支部ヲ組織セサル支部及支部ヲ組織セサル聯合分會又ハ分會ハ會長ニ直屬スルモノトス

第十九條 大ナル市ノ聯合分會又ハ分會ハ必要アル場合ニ於テハ聯合支部長ノ承認ヲ經テ協同事業ヲ處理スル爲聯合會ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ聯合會ニシテ直屬支部ノ系統ヲ異ニスル場合ニ在リテハ其ノ協同事業ノ處理ハ所屬聯合支部長ノ統制ニ基キ關係支部長ノ協同監督ヲ受クルモノトス

第二十條 前條ノ規定ニ依リ聯合會ヲ設クルトキハ關係聯合分會又ハ分會ノ協議ニ依リ聯合會規約ヲ定メ所屬ノ支部長又ハ聯合支部長ノ承認ヲ受クルモノトス

第二十一條 分會ハ行政區劃又ハ小學校通學區域若ハ交通等其ノ地方ノ情況ニ從ヒ班ニ區分シ班ハ更ニ最寄若干ノ人員ヲ以テ組ニ區分スルコトヲ得

聯合分會若ハ分會ハ地方ノ情況ニ應シ必要アル場合ニ於テハ海軍出身正會員ノ爲其ノ組織内ニ海軍班ヲ設置スルコトヲ得

第二十二條 聯合支部以下各團體ノ稱號ハ概ネ左記例稱ニ從フ

聯合支部 師管稱號、朝鮮ニ在リテハ師團司令部所在地名、臺灣ニ在リテハ軍名、關東州及滿洲ニ在リテハ滿洲ノ名稱ニ從ヒ帝國在郷軍人會第何師管(龍山)(臺灣)(滿洲)聯合支部

支部 聯隊區司令部所在地ノ名稱ニ從ヒ帝國在郷軍人會何支部
郡市又ハ工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ノ名稱ニ從ヒ帝國在郷軍人會何郡

聯合分會 (郡南部)(市)(市北部)聯合分會

帝國在郷軍人會何工場(鑛山)(會社)(運輸事務所)(保線事務所)(車庫)聯合分會

市町村又ハ工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ノ名稱ニ從ヒ帝國在郷軍人會何

分會 市(町)(村)分會

帝國在郷軍人會何工場(鑛山)(會社)(運輸事務所)(保線事務所)(車庫)分會

海外地ニ於ケル團體ハ前項ニ依ルノ外通常其ノ區域内ニ在ル著名ナル土地又ハ其ノ事務所所在地ノ名稱ヲ冠シ且前記ノ例稱ヲ適用スルモノトス

第四章 會員

第二十三條 本會ノ會員ハ正會員、特別會員、名譽會員ノ三種トシ其ノ區別左ノ如シ

一 正會員

(一) 豫備役後備役退役將校同相當官准士官、豫備役後備役下士兵卒、歸休兵、第一補充兵、海軍豫備員、第一國民兵役ニ在ル者及六週間陸軍現役ヲ終リ第二國民兵役ニ在ル者

(二) 前項ニ依リ會員タリシ者ニシテ其ノ役ヲ退キ前項ニ該當セサルニ至リタル者ノ中尙引續キ正會員タルコトヲ希望スル者

二 特別會員
三名譽會員

(一) 現役將校同相當官ニシテ本會又ハ聯合支部以下各團體ヨリ推薦セラレタル者
(二) 本會ヲ退キタル者ノ中功績顯著ニシテ本會又ハ聯合支部以下各團體ヨリ推薦セラレタル者

(二) 在郷軍人ニ非スシテ特ニ本會ニ助力ヲ與ヘ又ハ功勞アリタル者若ハ其ノ協力ヲ受クヘキ者ニシテ本會又ハ聯合支部以下各團體ヨリ推薦セラレタル者

第二十四條 會員ノ所屬ハ左ノ區分ニ依ルモノトス

一 正會員ハ住所ノ分會ニ屬ス但シ本籍地以外ニ住所ヲ有スル者ハ住所地ノ分會ニ屬スルノ外本籍地ノ分會ニモ屬スルコトヲ得

二 工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ニ在ル正會員ハ當該分會ニ屬ス但シ前記分會ニ屬スル外住所地又ハ本籍地ノ分會ニモ屬スルコトヲ得

三 特別會員及名譽會員ハ其ノ推薦セラレタル團體ニ屬ス

第二十五條 分會ハ會員名簿ヲ備付ケ其ノ移動ヲ明ニスルモノトス必要アル場合班ニ於テモ亦同シ

第二十六條 會員ニシテ住所地又ハ分會所屬ヲ變更シタルトキハ之ヲ關係分會ニ通知スルモノトス

第二十七條 特別會員及名譽會員ノ推薦ハ豫メ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ行フモノトス

第五章 資産及會計
第二十八條 本會ノ資産ハ本會直屬ノ財産及聯合支部以下各團體所屬ノ財産ヨリ成リ其ノ區分左ノ如シ

一 本會直屬ノ財産

(一) 御下賜金

(二) 補助金

(三) 寄附ニ係ル動産及不動産

(四) 本會ノ事業ヨリ生シタル收入

二 聯合支部以下各團體所屬ノ財産

(一) 御下賜金

(二) 聯合支部以下各團體ノ所有ニ屬スル財産及其ノ財産並事業ヨリ生スル收入

(三) 聯合支部以下各團體ノ受ケタル補助金、寄附ニ係ル動産及不動産、直屬系統ノ團體ヨリノ醸出金並分會ニ在リテハ會員ヨリ醸出シタル會費

第二十九條 本會直屬ノ財産中左ノ各號ノモノハ本會ノ基本財産トス

一 御下賜金(其ノ利子及本會評議會ノ決議ニ依リ其ノ費途ヲ定メタルモノヲ除ク)

二 寄附ニ係ル動産及不動産(寄附者ヨリ其ノ費途ヲ示シタルモノヲ除ク)

三 前二號ノ外本會評議員ノ決議ニ依リ基本財産ニ組入レタルモノ

第三十條 本會直屬ノ基本財産ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス但シ御下賜金以外ノ財産ハ特別ノ事情ア

ル場合ニ於テ本會評議員總員ノ半數以上出席シ其ノ出席議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ之ヲ消費スルコトヲ得

第三十一條 本會直屬ノ基本財産ハ本會評議會ノ決議ニ依リ財團法人帝國在郷軍人會財團ニ其ノ保管ヲ委託スルコトヲ得

第三十二條 本會直屬ノ財産ノ管理ニ關スル規程ハ前四條ニ定ムルノ外本會評議會ノ決議ニ依リ別ニ之ヲ定ムルモノトス

第三十三條 聯合支部以下各團體所屬ノ財産ノ管理ニ關スル規程ハ各所屬評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム但シ御下賜金ハ通常基本財産ニ組入レルモノトス

第三十四條 分會ハ所屬評議會ノ決議ニ依リ會員ヨリ會費ヲ釀出セシムルコトヲ得

第三十五條 支部以下各團體ハ各所屬評議會ノ決議ニ依リ直屬系統ノ團體ヨリ事業費ヲ釀出セシムルコトヲ得

第三十六條 本會ノ經費ハ本會直屬ノ基本財産以外ノ財産ヲ以テ又聯合支部以下各團體ノ經費ハ各所屬ノ基本財産以外ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨スルモノトス

第三十七條 會計年度ハ毎年四月一日ヨリ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十八條 翌年度ノ豫算ハ其ノ年度開始前各所屬評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

前年度ノ決算ハ翌年度終了前各所屬評議會ニ提出シ其ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第六章 役員及顧問

第三十九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名

副會長 各若干名

監事 各若干名

理事 各若干名

評議員 各若干名

第四十條 聯合支部以下各團體ニ左ノ役員ヲ置ク
前項ノ外第二十一條ノ規定ニ依リ班(組)ヲ設ケタル場合ニ於テハ同班(組)ニ各長一名及同副長若干名ヲ置クコトヲ得

第四十一條 役員ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ囑託又ハ推薦スルモノトス
一本會

會長及副會長ハ會老ノ諮詢ヲ經テ總裁之ヲ囑託ス
理事及監事ハ東京及其ノ附近ニ現住スル正會員及特別會員中ヨリ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑

託ス

審議員ハ東京及其ノ附近ニ現住スル會員中ヨリ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託ス
評議會ハ内地ニ在リテハ支部ヨリ各一名ヲ當該支部評議會ニ於テ其ノ所屬評議員及正會員タル
支部副長中ヨリ選舉シ朝鮮、臺灣、關東州及滿洲ニ在リテハ聯合支部ヨリ各一名ヲ當該聯合支
部評議會ニ於テ其ノ所屬評議員及正會員タル聯合支部副長中ヨリ選舉シ會長ノ報告ニ依リ總裁
之ヲ囑託ス但シ選舉ノ方法ニ關シテハ別ニ會長ニ於テ之ヲ定ム
前項ノ外領守府管區内ヨリ海軍出身ノ正會員タル評議員各三名ヲ選出シ會員ノ報告ニ依リ總裁
之ヲ囑託ス

前項ノ評議員ハ領守府管區内ニ在ル各支部評議會ニ於テ其ノ所屬評議員及正會員タル支部副長
中ヨリ海軍出身ノ正會員代表者一名ヲ選舉シ其ノ代表者ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ代表者ヲ選舉スルニ當リ支部評議員及正會員タル支部副長中ニ海軍出身ノ正會員在ラサ
ルトキハ各支部評議會ニ於テ當該支部内ノ聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ノ海軍出身正
會員タル役員中ヨリ一名ノ代表者ヲ選舉ス

前項ノ代表者ヲ選舉スルニ當リ支部内ノ聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ノ役員中ニ海軍
出身ノ正會員在ラサルトキハ當該支部内分會ノ海軍出身正會員タル役員中ヨリ一名ノ代表者ヲ
選舉ス

前三項ニ依ル選舉ノ方法及選出區域等ニ關スル細部ノ規程ハ別ニ會長ニ於テ之ヲ定ム

二 聯合支部

聯合支部長ハ内地ニ在リテハ師團司令部附少將ニ、朝鮮ニ在リテハ師團司令部所在地ノ現役將
官中ヨリ、臺灣、關東州及滿洲ニ在リテハ軍管轄區域内ノ現役將官中ヨリ會長ノ推薦ニ依リ總
裁之ヲ囑託ス

聯合支部副長ハ聯合支部評議會ニ於テ聯合支部内ノ特別會員中ヨリ一名其ノ他ハ正會員中ヨリ
推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

理事及監事ハ聯合支部内ノ正會員及特別會員中ヨリ聯合支部長之ヲ囑託ス

評議員ハ各支部評議會ニ於テ其ノ所屬評議員及正會員タル支部副長中ヨリ選舉シ聯合支部長之
ヲ囑託ス其ノ選舉スル人員ハ聯合支部長ヨリ概ネ正會員ノ數ニ應シ豫メ各支部ニ配當ス

前項ノ外支部ヨリ選出セラレタル本會評議員本條第一號第五項ニ依ル海軍出身ハ當該所屬聯合支
部ノ評議員タルモノトシ聯合支部長之ヲ囑託ス

三 支部

支部長ハ内地ニ在リテハ聯隊區司令官ニ、朝鮮、臺灣、關東州及滿洲ニ在リテハ聯合支部長ノ
推薦シタル現役佐官ニ、其ノ他ノ海外地ニ在リテハ支部評議會ニ於テ支部内ノ正會員及特別會
員中ヨリ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

第十四條第二項ノ規定ニ依リ支部ヲ設ケタル場合ニ於ケル支部長ハ當該關係聯合支部長之ヲ兼
ヌルモノトシ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

支部副長ハ支部評議會ニ於テ支部内ノ特別會員中ヨリ一名前項支部ニ在リテハ二名 其ノ他ハ正會員中ヨリ
之ヲ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

理事及監事ハ支部内ノ正會員及特別會員中ヨリ支部長之ヲ囑託ス

評議員ハ各聯合分會聯合分會ノ設ケナキ所ニ在リテハ分會ノ評議會ニ於テ其ノ所屬ノ評議員、聯合分會長、同副長、

分會長及同副長中ヨリ選舉シ支部長之ヲ囑託ス其ノ選舉スル人員ハ支部長ヨリ概ネ正會員ノ數

ニ應シ豫メ各聯合分會聯合分會ノ設ケナキ所ニ在リテハ分會ニ配當ス

四 聯合分會

聯合分會長及聯合分會副長ハ聯合分會評議會ニ於テ聯合分會内ノ正會員中ヨリ推薦シ會長ノ報

告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

理事及監事ハ聯合分會評議會ニ於テ聯合分會内ノ正會員及名譽會員中ヨリ推薦シ聯合分會長之

ヲ囑託ス

海軍班長及同副長ヲ設クル場合ニ於テハ同班内ノ正會員ニ於テ當該正會員中ヨリ推薦シ聯合分

會評議會ノ承認ヲ經テ聯合分會長之ヲ囑託ス

評議員ハ各分會評議會ニ於テ其ノ所屬評議員、分會長及同副長中ヨリ選舉シ聯合分會長之ヲ囑

託ス其ノ選舉スル人員ハ聯合分會長ヨリ概ネ正會員ノ數ニ應シ豫メ各分會ニ配當ス

五 分會

分會長及分會副長ハ分會評議會ニ於テ分會内ノ正會員中ヨリ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ

囑託ス

理事及監事ハ分會評議會ニ於テ分會内ノ正會員及名譽會員中ヨリ推薦シ分會長之ヲ囑託ス

班長、同副長及組長、同副長ヲ設クル場合ニ於テハ同班(組)内ノ正會員ニ於テ當該正會員中ヨ

リ推薦シ分會評議會ノ承認ヲ經テ分會長之ヲ囑託ス

評議員ハ分會ノ總會ニ於テ分會内ノ正會員中ヨリ推薦ス

第四十二條 本會及聯合支部以下各團體ニ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ各團體評議會ニ於テ會員中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑

託ス

第四十三條 役員及顧問ハ名譽職トシ會長、副會長、特別會員タル役員及顧問ハ任期ヲ定ムルコト

ナシ

前項以外ノ役員ハ其ノ任期ヲ三年トス但シ再任ヲ妨ケス又補闕者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間ト

ス

第四十四條 役員交代ヲ行フ場合ニ於テハ後任者ノ就職スル迄ハ仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フモ

ノトス

第四十五條 囑託ニ係ル役員ハ第四十三條ノ任期ニ依ルコトナク必要ニ應シ任期ヲ解カルルコトア

ルヘシ

第四十六條 會長ハ會務ヲ總理シ及本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四十七條 聯合支部長、支部長、聯合分會長及分會長ハ各所屬ノ團體ノ會務ヲ統轄シ及之ヲ代表

ス

副長ハ各所屬團體ノ長ヲ輔佐シ其ノ長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四十八條 會長ハ本會評議會ノ決議カ其ノ權限ヲ超エ法令ニ背キタルトキ又ハ決議カ公益ヲ害シ若ハ本會ノ目的ヲ遂行スル爲著シク不適當ト認メタルトキハ審議會ニ諮問シ當該評議會ノ決議ニ依ルコトナク之ヲ決裁スルコトヲ得

第四十九條 聯合支部長以下各團體ノ長ハ各所屬評議會ノ決議カ其ノ權限ヲ超エ法令ニ背キタルトキ又ハ決議カ公益ヲ害シ若ハ本會ノ目的ヲ遂行スル爲著シク不適當ト認メタルトキハ直屬上級團體ノ長ノ意見ヲ聽キ當該評議會ノ決議ニ依ルコトナク之ヲ決裁スルコトヲ得

第五十條 理事ハ各所屬ノ長ノ命ヲ承ケ當該團體ノ事務ヲ執行ス

第五十一條 監事ハ各所屬ノ長ノ命ヲ承ケ當該團體ノ經理ノ整否ヲ監査ス

第七章 審議會、評議會及總會

第五十二條 本會ニ最高ノ諮問機關トシテ審議會ヲ置ク

審議會ハ左ノ事項ヲ審議スル所トス

一 本會評議會ニ提出スヘキ事項中重要ナルモノ

二 本會評議會ニ於テ決議セシ事項中第四十八條ノ規定ニ依リ再議ニ付スヘキ事項

三 本會評議員ヲ召集スルニ遑ナキ臨時ノ重要事項

第五十三條 審議會ハ議長、副議長各一名及審議員ヲ以テ組織シ議長、副議長ハ審議員ノ互選トス

第五十四條 審議會ハ會長ノ諮問ヲ待テ開會シ諮問事項ニ付意見ヲ答申スルモノトス
會長、副會長、本會理事及同監事ハ審議會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 本會及聯合支部以下各團體ニ決議機關トシテ左ノ役員ヨリ成ル評議會ヲ置ク

本會評議會 本會評議員

聯合支部評議會 正會員タル聯合支部副長、聯合支部評議員

支部評議會 正會員タル支部長、正會員タル支部副長、支部評議員

聯合分會評議會 聯合分會長、聯合分會副長、聯合分會評議員、海軍班ノ設ケ在ル聯合分會ニ於テハ其ノ班長

分會評議會 分會長、分會副長、分會理事、分會評議員

第五十六條 本會評議會ノ決議スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 規約ヲ設ケ又ハ改訂スルコト

二 本會ヲ通シ統一處理ヲ要スル事業ニ關スルコト

三 財産ヲ以テ支辨スル事業ニ關スルコト

四 年度豫算ヲ定ムルコト

五 決算報告ノ承認ニ關スルコト

六 財産ノ管理方法ニ關スルコト

七 基本財産ノ設置及處分ニ關スルコト

八 不動産ノ取得及處分ニ關スルコト

九 其ノ他重要ナル會務

第五十七條 本會評議會ハ前條決議事項ノ外必要アル場合ニ於テハ聯合支部以下各團體ヨリ提出ノ

意見中重要ナルモノニ付討議シ其ノ結果ヲ會長ニ答申スルモノトス
第五十八條 會長ハ第五十二條第二項第三號ニ依リ處置シタル事項ハ次回評議會ニ提出シ其ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第五十九條 聯合支部以下各團體ノ評議會ニ於テ決議又ハ討議スヘキ事項ハ本規約中特ニ定メタルモノノ外第五十六條及第五十七條ニ準シ之ヲ定ムルモノトス

第六十條 本會、聯合支部及支部ノ評議會ニハ議長及副議長各一名ヲ置キ當該評議會議員ノ互選トス

第六十一條 聯合分會及分會ノ評議會ノ議長ハ當該所屬ノ長ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第六十二條 各評議會ハ議長ノ外定員ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ本規約中及聯合支部以下各團體ニ於テ特ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 各評議會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ本規約中及聯合支部以下各團體ニ於テ特ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 本會評議會ハ毎年一回會長ニ於テ之ヲ召集ス召集日時及會議ノ事項ハ開會ノ日ヨリ三十日前ニ到著スヘク通知スルモノトス但シ急ヲ要スル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 聯合支部以下各團體ノ評議會ハ各所屬ノ長ニ於テ必要アル場合ニ於テ之ヲ召集スルモノトス

第六十六條 前諸條ニ規定スルノ外評議會議事等ニ關スル事項ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ各所屬評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十七條 會長、副會長、聯合支部長、同副長、支部長、同副長、理事、監事ハ各所屬ノ評議會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第六十八條 分會ハ毎年少クモ一回總會ヲ開キ役員ノ推薦及會務ノ報告等ヲ爲スモノトス
聯合分會以上ノ團體ニ在リテハ必要ニ應ジ總會ヲ開クコトヲ得

第八章 監督

第六十九條 聯合支部以下各團體ハ左ノ區分ニ從ヒ各其ノ監督ヲ受ク

聯合支部及支部

內地 各所管毎ニ師團長、鎮守府司令長官

朝鮮 軍司令官及各管區毎ニ師團長、要港部司令官

其ノ他ノ地 各管轄毎ニ軍司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官

聯合分會及分會

內地 關係聯隊區司令官、海軍人事部長

第七十條 本會及聯合支部以下各團體ハ組織系統ニ依リ各直屬ノ團體ヲ指導監督スルモノトス

第七十一條 本會及聯合支部以下各團體ハ各直屬團體カ其ノ權限ヲ超エ法令ニ背キタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ本會ノ目的ヲ遂行スル爲著シク不適當ト認ムル事項ヲ決議シタルトキハ之ヲ取消サシムルコトヲ得

第九章 會旗及徽章

第七十二條 本會ニ會旗ヲ設ケ分會毎ニ一旒ヲ置ク此ノ會旗ハ奉送迎及集會等團體ヲ表示スル場合

ニ之ヲ用ウルモノトス

第七十三條 本會ハ會員徽章及會長、副會長、聯合支部以下各團體ノ長、同副長、班長、同副長、組長、同副長ノ徽章ヲ設ケ各其ノ身分ヲ表彰スル場合ニハ之ヲ佩用スルモノトス

第七十四條 會旗及徽章ノ制式並徽章佩用ノ位置ハ附圖第一乃至第三ノ如シ

第七十五條 正會員ハ會員タルノ身分ヲ表示スル場合ニハ成ルヘク軍服ヲ著用スルモノトス

第十章 表彰

第七十六條 本會ノ會員ニシテ其ノ功績顯著ナルカ又ハ其ノ行爲他ノ儀表ト爲リ何レモ優賞スヘキモノト認メタル者ニハ會長ノ報告ニ依リ總裁ヨリ有功章ヲ授與ス

第七十七條 有功章ノ制式及佩用位置ハ附圖第四ノ如シ

第七十八條 第七十六條ニ該當セサル程度ノ者ニシテ左ノ各號ニ該當スル會員ニハ會長ヨリ賞狀ヲ授與ス

一 三年以上同一ノ分會ニ所屬シ此ノ間會員ノ模範ト爲リ特ニ表彰ノ必要ヲ認メタル者

二 役員ニシテ前後ヲ通算シ六ヶ年以上在任シ功勞尠カラサル者

三 不時ノ出來事ニ際シ義侠ノ動作ヲ爲セシ等特ニ表彰ノ必要ヲ認メラレタルモノ

第七十九條 分會又ハ其ノ以上ノ團體ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ會長ヨリ賞狀ヲ授與ス

一 會員ノ團結又ハ團體ノ結合鞏固ニシテ優良ナル成績ヲ舉ケ他ノ模範トナルヘキモノ

二 不時ノ出來事ニ際シ團體的義侠ノ動作ヲ爲セシ等特ニ表彰ノ必要ヲ認メラレタルモノ

第八十條 本會又ハ聯合支部以下各團體ニ金品ヲ寄附セシモノ及會員ニ非スシテ本會ノ趣旨ヲ贊助

シ功勞顯著ナルモノニハ會長ヨリ謝狀若ハ會杯ヲ贈ルコトアルヘシ

第十一章 雜則

第八十一條 本規約ハ本會評議會ニ於テ評議員總員ノ半數以上出席シ其ノ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得且陸軍大臣及海軍大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第八十二條 本會ハ團體トシテ政治ニ干與シ又本會會員ハ本會ノ名目ヲ以テ政治ニ干與スルコトヲ得ス

第八十三條 戰時ニ在リテハ第二章、第六章及第七章ノ規定ニ關シ會長ニ於テ必要ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 本部事務規程、表彰上申手續、禮式規程、報告規程、表弔慰藉規程並釋放者保護規程ハ會長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第八十五條 本規約ノ外聯合支部以下各團體ニ於テ必要ナル規程ハ當該所屬ノ評議會ニ於テ之ヲ定メ聯合支部ノモノハ會長、支部ノモノハ聯合支部長、聯合分會及分會ノモノハ支部長ノ承認ヲ受クルモノトス

第八十六條 聯合支部以下各團體ハ本會ノ事業並改善事項ニ關シ意見アルトキハ順序ヲ經テ會長ニ上申スルコトヲ得
前項ノ上申事項中會長ニ於テ重要ト認ムルモノハ第五十七條ノ規定ニ依リ本會評議會ニ提出シ之ヲ討議セシムルモノトス

附 則 (大正十四年度發第二六八號)

本規約ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本規約中聯合支部ニ關スル規定ハ會長ノ別ニ定ムル期日ヨリ之ヲ施行シ本會及支部ノ役員ニ關シテハ會長ノ別ニ定ムル期日迄仍從前ノ規約ニ依ルモノトス
從前ノ規約ニ依ル役員中任期アルモノハ其ノ就任ノ日ヨリ之ヲ起算シ本規約ニ規定スル任期滿了ノ日迄引續キ勤続スルモノトス但シ本會又ハ支部ノ役員ニシテ其ノ推薦者若ハ選出方法カ本規約ニ依リ變更セラレタルモノニ係ルモノナルトキハ別ニ會長ニ於テ定ムル期日迄ニ之ヲ改選スルモノトス
本規約ニ依リ新ニ設ケラレタル本會又ハ支部ノ役員亦之ニ準ス
附 則 (昭和三年會庶第一五五號)
本規約ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國在郷軍人會直屬財產管理規程

(大正十四年三月三十日庶發第二百七十四號公布
昭和三年會庶第百六十四號改正現在)

第一章 總 則

第一條 本規程ハ帝國在郷軍人會規約第三十二條ニ依リ本會直屬財產ノ管理方法ヲ規定スルモノトス

第二章 財 產

第二條 本會直屬ノ財產ヲ左ノ二種ニ區分ス

甲 號

- 一 御下賜金
- 二 補助金
- 三 寄附ニ係ル動產及不動產
- 四 乙號ニ屬セサル財產
- 五 以上各號ノ財產ヨリ生スル收入

乙 號

- 一 雜誌及圖書編纂事業ニ關スル財產
 - 二 特別ノ必要ニ應シ別途ノ事業ニ關スル財產
 - 三 以上各號ノ財產及事業ヨリ生スル收入
- 第三條 前條乙號ニ依ル事業ハ之ヲ特別會計ト爲シ其ノ資金及事業收入ニ依リ之ヲ維持スルモノトス

第三章 管 理

- 第四條 本會直屬ノ財產ハ會長ノ管理ニ屬ス
- 第五條 不動產ノ保管ハ之ヲ財團法人帝國在郷軍人會財團ニ委託スルヲ例トス但シ本會ニ於テ保管シ之ヲ登記スル場合ニ於テハ會長ノ指名シタル理事ノ名義ヲ以テ爲スモノトス
- 第六條 物品ハ會長ノ指名シタル理事之ヲ保管ス但シ供用ニ屬スルモノハ更ニ管守者ヲ設ケテ管守

セシム

第七條 金錢、有價證券及其ノ他ノ財産ハ會長ノ指名シタル理事之ヲ保管シ預金局、郵便官署、銀行若ハ信託會社ニ預ケ入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第八條 前條ノ銀行若ハ信託會社ノ選擇範圍ハ豫メ本會理事會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第九條 本會直屬ノ財團ヲ財團法人帝國在郷軍人會財團ニ委託セントスルトキハ會長ハ必要ノ條件ヲ附シ當該財團理事長ト契約ヲ締結スルモノトス

第四章 會計

第十條 一般會計ニ屬スル決算書ニハ其ノ年度末ニ於ケル財産目錄ヲ附スルモノトス
特別會計ニ屬スル事業計畫、財産目錄、貸借對照表及損益計算書ハ本會評議會ニ提出シ豫算、決算ニ代フルモノトス

第十一條 御下賜金及寄附金品ノ現況ハ必要ノ都度雜誌「戰友」ニ公告スルモノトス

第十二條 前年度ノ乘餘金ハ之ヲ現年度ニ繰越シ翌年度ノ收入豫算ニ編入スヘシ

第五章 雜則

第十三條 本規程ニ定ムルモノノ外會計經理ニ關スル細部ノ事項ハ本部事務規程ヲ以テ定ムルモノトス

第十四條 本規程ハ本會評議會ノ決議ヲ經ルニ非ラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

附 則 (大正十四年三月三十日庶發第二七四號)

本規程ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和三年會庶第一六四號)

本規程ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國在郷軍人會評議員選舉規程

(大正十四年三月三十日庶發第二七五號)

第一章 總 則

第一條 本規程ハ帝國在郷軍人會規約以下規約ト略稱ス第四十一條第一號ニ依リ本會評議員ノ選舉ニ關スル細部ノ事項ヲ規定スルモノトス

第二條 本會評議員ヲ選舉セムカ爲左ノ區分ニ從ヒ選舉長ヲ設ク

内地支部選舉長 當該支部長

海外聯合支部選舉長 當該聯合支部長

鎮守府管區選舉長 鎮守府所在地所屬ノ支部長

第三條 選舉長ハ本會評議員選舉ニ關スル業務一切ニ付會長ニ對シ其ノ責ヲ負フモノトス

第四條 規約第四十一條第一號第六項ニ依リ海軍出身ノ正會員タル代表者ヲ選舉スルニ當リ一支部カ兩鎮守府管區ニ互ルトキハ其ノ支部ハ海軍出身ノ正會員數多キ區域ニ屬スル鎮守府管區ニ專屬シテ代表者一名ヲ選舉スルモノトス但シ選舉一期間(二年)ハ其ノ所屬ヲ變更セサルモノトス

第二章 選舉ノ執行

第五條 本會評議員及海軍出身ノ正會員タル代表者ノ選舉ハ當該選舉長監督ノ許ニ之ヲ行フモノトス

第六條 選舉長ハ所屬評議會ノ議長ヨリ書面選舉ヲ申出タル場合又ハ海軍出身ノ正會員タル本會評議員選出ニ當リ選舉者選舉長ノ許ニ集合シ得サル事情アル場合ハ書面ノ送付ニ依リ選舉ヲ行ハシムルコトヲ得但シ書面ノ送付ニ依ル選舉法ト選舉者、選舉長ノ許ニ集合シテ選舉スル方法トヲ混用スルヲ得ス

第七條 選舉長ハ必要アル場合ニ於テハ豫メ選舉日時書面ノ送付ニ依リ選舉ヲ行フ及被選舉者名簿要レハ役種官等級及本會ニ關係セル役員略歴ヲ頭書ヲ選舉者ニ通報スルモノトス

第八條 選舉ノ際選舉者ハ記名投票ヲ以テ被選舉者ヲ單記海軍出身ノ正會員タル本會評議員スルモノトストス但シ被選舉者二名ヲ連記スヘキヲ單記シタル場合ハ其ノ投票ヲ無効トス

第九條 評議會ニ於テ選舉ヲ行ヒタル場合又ハ選舉者、選舉長ノ許ニ集リ投票ヲ行ヒタル場合ニ於テハ開票ノ結果最高ノ點ヲ得タル者ヲ當選トス若シ最高ノ同點者二名以上海軍出身ノ正會員タル本會評議員ノ選舉ニ於テハ高點者ヨリ二名ヲ得タルトキハ同點者ノミニ對シ抽籤ニ依リ當選者ヲ決定スルモノトス

第十條 書面ノ送付ニ依リ選舉ヲ行フ場合ニハ特ニ左ノ各號ニ依ルモノトス
一 選舉者ハ投票ヲ二重封ニシ中封筒表面ノ上部ニ「評議員選舉」若ハ「代表者選舉」ト朱書シ又其ノ下部ニ選舉者ノ「氏名」ヲ朱書シテ選舉長ニ發送スルモノトス
二 開封ノ際ハ選舉長ノ外當該支部ノ役員及支部所在地ノ正會員少クモ各二名立會フモノトス

三 開封ノ結果最高ノ同點者二名以上海軍出身ノ正會員タル本會評議員ノ選舉ニ得タルトキハ同點者ノミニ對シ徵兵検査ノ際行フ抽籤法ニ準據シテ當選者ヲ決定スルモノトス

第十一條 選舉ニ關スル書面ハ書留郵便ヲ以テ送付スルヲ例トス

第三章 報告及通報

第十二條 第四條ノ規定ニ依リ某鎮守府管區ニ專屬シタル支部ノ長ハ其ノ專屬鎮守府管區名及海軍正會員ノ兩管區ニ所屬スル人員ヲ順序ヲ經テ會長ニ報告シ又關係兩鎮守府所在地ノ所屬支部長ニ之ヲ通報スルモノトス

第十三條 選舉長ハ本會評議員及海軍出身ノ正會員タル代表者ノ選舉ヲ行ヒタルトキハ其ノ結果及當選者ノ役種官等級氏名並當選者ノ本會ニ關係セル役員略歴ヲ順序ヲ經テ會長ニ報告シ又代表者關係ノ支部長ニ之ヲ通報スルモノトス

第十四條 選舉長ハ書面ノ送付ニ依リ選舉ヲ行ヒタルトキハ前條ニ依ルノ外開票ノ結果ヲ選舉者ニ通報スルモノトス

第四章 補則

第十五條 選舉長ハ前諸條ニ規定スルノ外必要アル場合ニ於テハ選舉ニ關スル細部ノ規定ヲ設クルコトヲ得

帝國在郷軍人會評議會規程

(大正十四年三月三十日庶務第三十號公布
昭和三年會庶務第六十六號改正現在)

第一章 總則

第一條 本規程ハ帝國在郷軍人會評議會ノ決議ニ依リ本會評議會ニ關スル必要ノ事項ヲ規定スルモノトス

第二條 評議員ニ會議係ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

會議係ハ長一名事務員若干名ヨリ成リ本會役員及本部職員中ヨリ會長之ヲ命ス

第三條 評議會ノ會議ハ本會會員ニ限リ之ヲ公開ス但シ議長ニ於テ秘密會又ハ必要ト認メタルトキハ入場ヲ禁止シ若ハ制限スルコトアルヘシ

第二章 成立

第四條 評議員ハ招集通知狀ニ指定シタル日時及場所ニ集會シ會議係長ニ招集通知狀ヲ交付スルモノトス

第五條 集會シタル評議員總數三分ノ一ニ充テタルトキハ議長及副議長ヲ選舉ス

第六條 議長及副議長ノ選舉ハ各別ニ行ヒ議長先ニ副議長ヲ次ニ行フモノトス

第七條 議長及副議長ノ選舉ハ記名投票ヲ以テシ被選舉者ヲ單記スルモノトス但シ出席議員三分ノ二以上ノ同意アルトキハ指名推薦ヲ以テ記名投票ニ代ユルコトヲ得

第八條 議長及副議長ヲ選舉スル場合ハ評議員ハ會議係長ノ呼名ニ應シ議長席ニ設ケアル投票函ニ

投票ヲ投入スルモノトス

第九條 投票終了シタルトキハ會議係長評議員ノ面前ニ於テ投票數ヲ調査シ其得點ヲ評議員ニ報告シ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ會議係長抽籤シテ之ヲ定ムルモノトス此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若シ同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ會議係長抽籤シテ之ヲ定ムルモノトス

第十條 議長及副議長ノ當選者ニシテ當選ヲ辭スルトキハ更ニ其選舉ヲ行フモノトス

第十一條 評議員ノ議席ハ師管(師團)番號ノ記載順序ニ依ル 順序ニ從ヒ次ヲ臺灣、滿洲ノ順序トス

第三章 議長ノ職務

第十二條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持スルモノトス

第十三條 議長ハ會議係ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ頭末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムルモノトス 會議錄ニハ議長及議長ノ指名セシ議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス

第十四條 議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ會長ニ報告スルモノトス

第十五條 議長事故アルトキハ副議長其ノ職務ヲ代理ス

第十六條 議長、副議長ノ任期ハ本會評議員ノ任期ニ依ル

第四章 議事

第十五條 會議ハ通常午前九時ニ始ム

第十六條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ會議ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後六時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

第十七條 議長ハ議案件數及招集期間等ヲ顧慮シ議事日程ヲ調製シ毎日之ヲ會議ノ終ニ於テ評議會ニ報告スルモノトス

第十八條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ハラズ他ノ緊急事件ニ付キ開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討論ヲ用ヒスシテ評議會ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第十九條 議案ハ各評議員ニ配付シタル後左ノ順序ニ依リ決議ニ至ルモノトス

一 議案ニ對シ説明及質議

二 討議及修正

三 決議

第二十條 議案ハ議長之ヲ朗讀シタル後會長、副會長、本會理事又ハ發議者ニ於テ其ノ趣旨ヲ説明スルコトヲ得

第二十一條 會長、副會長、本會理事又ハ發議者ハ議案若ハ發議ノ趣旨ヲ説明スル爲ニ隨時發言スルコトヲ得

ルコトヲ得

第二十二條 議案ニ對シ修正案ヲ提出セムトスル評議員ハ二名以上ノ贊成ヲ得テ其ノ案ヲ具ヘ書面ヲ以テ議長ニ提出スルモノトス但シ輕易ナル事項ハ口頭ヲ以テ述フルコトヲ得

第二十三條 議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ビ支部名、聯合支部名又ハ鎮守府管區名例ハ「麻布」、「滿洲」ヲ告ケ議長ノ許可ヲ得テ發言スルモノトス

第二十四條 凡テ發言ハ自席ニ於テ爲スモノトス

第二十五條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ豫メ評議會ニ通告シ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムルモノトス

第二十六條 議長討論ニ與リタルトキハ其ノ問題ヲ表決シ終ル迄議長席ニ復スルコトヲ得ス

第二十七條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第二十八條 發言者未タ盡キスト雖評議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ評議會ニ諮ヒ討論ヲ用ヒスシテ之ヲ決スルモノトス

第二十九條 議長ハ必要ト認ムルトキ又ハ會議ノ決議アルトキハ特別委員ヲ設ケ之ニ特定ノ事項又ハ議案ノ調査ヲ附託スルコトヲ得

第五章 表決

第三十條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ評議會ニ宣告スルモノトス

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ何人モ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第三十一條 同一ノ議題ニ付數個ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議長ハ表決ノ順序ヲ定ム其ノ

順序ハ原案ニ最モ遠キモノヨリ先ニスルモノトス

第三十二條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決テ取ルモノトス

第三十三條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多數ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スルモノトス但シ議長必要ト認ムルトキ又ハ評議員三名以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用キスシテ記名若ハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル評議員ハ白色票ヲ否トスル評議員ハ青色票ヲ投票函ニ投入スルモノトス但シ記名投票ヲ爲ス場合ハ各色票ニ記名スルモノトス

第三十五條 總テ投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スルモノトス

第六章 建議

第三十六條 建議案ヲ評議會ニ提出セムトスルトキハ評議員二名以上ノ贊成ヲ得テ其ノ案ヲ具ヘ書面ヲ以テ議長ニ提出スルモノトス

第三十七條 議長ハ建議案ヲ日程中ニ加ヘ評議會ニ付スルモノトス

第三十七條 評議會ニ於テ建議案ヲ可決シタル場合ハ議長ニ於テ建議書ヲ調製シ之ヲ會長ニ差出ス

第七章 補則

第三十八條 本規程ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ評議會ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第三十九條 會長ヨリ評議會ニ提出セラレタル討論案ハ本規程ニ準據シテ審議シ其ノ結果ヲ會長ニ答申スルモノトス

第四十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧噪ニ涉リ其ノ他ノ會議ノ妨害ヲナストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ハ相當ノ手續ヲ講スルコトヲ得

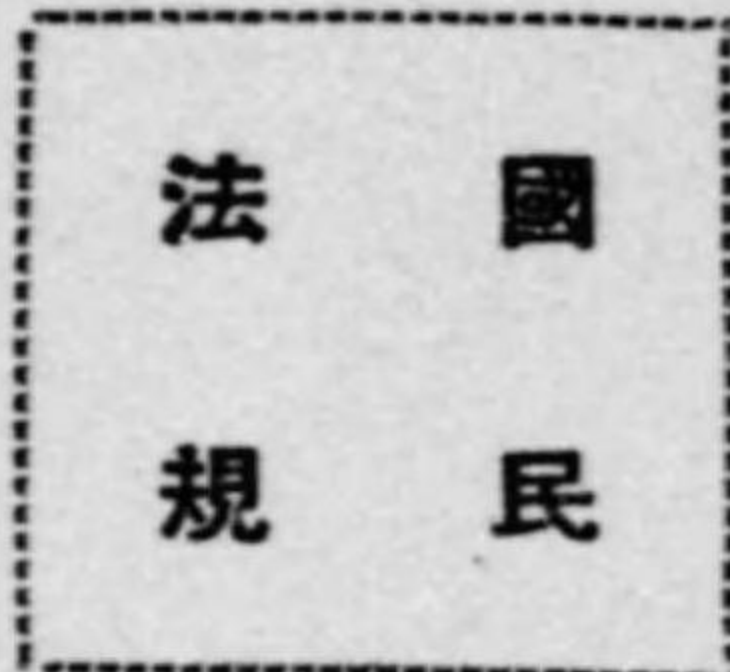
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ凡テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ハ相當ノ手段ヲ講スルコトヲ得

昭和七年三月十五日印刷
昭和七年三月二十日發行

兵事關係法（下編）

定價金壹圓四拾錢

不許複製



編輯者 大日本法令普及會

發行者 田中喜重郎

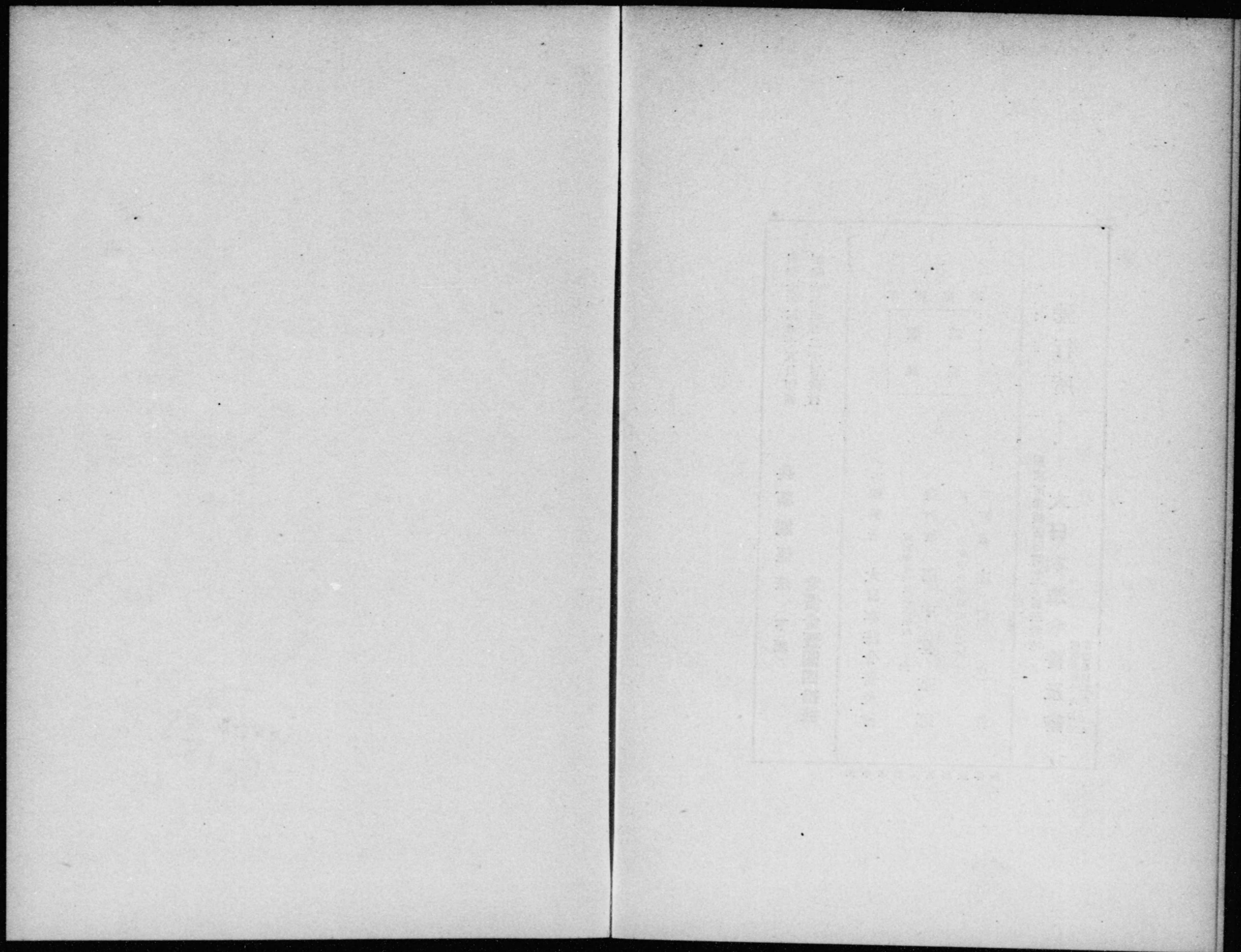
印刷者 山口忠作

東京市赤坂區田町七丁目三番地

發行所

大日本法令普及會

電話赤坂一六七三
振替東京二五三三七



書庫

516

法律資料第一卷
28.3.13
調查立法考查局

